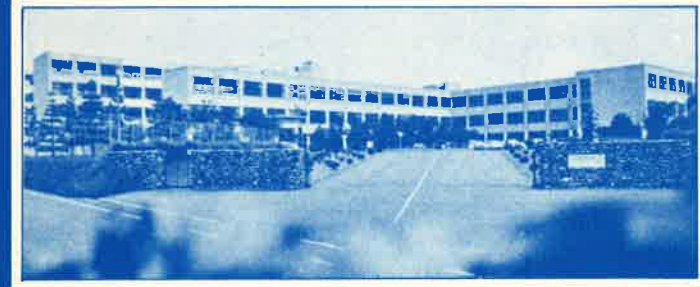


**ALMNI BULLETIN
OF
NUMAZU
TECHNICAL
COLLEGE**

75



第 5 号

同窓会誌

沼津工業高等専門学校同窓会

目次

| | |
|-----------------|----|
| 会誌5号によせて | 2 |
| 高専制度の未来像 | 4 |
| 支部関係 | 6 |
| 支部設立推進について | 6 |
| 愛知県支部発足 | 7 |
| 浜松支部紹介 | 9 |
| 職場における高専生 | 10 |
| 明電舎・昌和製作所 | |
| 第13回東海地区高専大会観戦記 | 11 |
| 同窓会誌に寄せて | 13 |
| 旧教官 | 13 |
| 教官 | 13 |
| 職員 | 19 |
| 会員 | 20 |
| 死亡報告 | 29 |
| 告知板 | 31 |
| 名簿担当理事 | 31 |
| 現住所不明者 | 32 |
| 9期生名簿および変更者名簿 | 33 |
| 同窓会10周年PR | 47 |
| 会誌4号編集委員からのおわび | 48 |
| 編集後記 | 48 |

会誌5号によせて

会長 伊達 忠 昭

私達の沼津高専同窓会は今年で発足以来9年目を迎え、会員数も約1,200人を数えるまでになりました。

この会誌5号を発行するに当たり、私は会員の皆様に同窓会の現状についての私の所見を述べたいと思います。

1期生が卒業した42年に初代役員の皆様の努力により、沼津高専同窓会が設立されました。

その後毎年会員数が増えてまいりましたが、初期の頃はまだ何と言っても歴史も伝統も無い為、会の運営については暗中模索の状態であったと思われます。

会の活動が軌道に乗ったのは沼津高専創立10周年の年からだと思います。

この時の役員と顧問教職員の皆様の並々な御尽力により、会員全員の詳細な名簿が発行され、又、高専祭と時を同じくして出席者総数300名におよぶ盛大な総会が開催されました。

これを契機として一般会員の同窓会に対する認識も深まり、会の運営に対する1つのルールが敷かれたものと評価してよいと思います。

現在、会は各1名の会長、副会長、事務長と30余名の各クラスから選出された理事及び9名の顧問の教職員の皆様とで運営されています。

会の最高議決機関は総会ですが、日常の業務は、上記役員全体で構成する理事会と特定の業務に対し必要に応じて随時委員を選出して開催される各種委員会、及びこれらの会を円滑に運営する為、会長・副会長・事務長の3役が協議を行なう3役会とで運営されています。

理事会は総会の承認を必要としない業務について審議、議決を行なうと共に議決事項の執行も行ないますので事実上、会の中核は理事会であると言えます。

理事会は通常は月に1～数回、夜の6時頃から9時頃まで母校の一室を借り、ここへ役員が勤務を終わってから集合して開催しますが、40余名の構成人員の内、実際に集まれるのは普通半分以下であり、この為審議も滞りがちな事が多く、議決事項を全員に徹底するのも困難が多くなっているのが実情です。

これは各役員の自覚の問題もありますが、何よりも同窓会の役員という立場が、一般会員の皆様にも容易に理解できる通り、職場に於ても、又地域に於ても非常に弱いものである為に十分な熱意と時間的余裕のある者でなければ満足な活動はできないという事が大きな原因であると思います。

さらに役員は全て完全な無報酬のもとで大いなる自己犠牲の上に活動しているのであります。

理事の中にはクラス内に自分より他に沼津周辺在住者がいない為、任期が2年と定められているにもかかわらず万年理事とならざるをえなくなっている者も多数います。

極論すれば現在の同窓会はひとえに役員の皆様の善意に基づく奉仕によって成り立っているのであります。

この事を一般会員の皆様にも再度認識していただき、会や各理事からの皆様に対しての各種の依頼や問い合わせ等に対しては積極的に協力し、又会費の納入や住所、勤務先の連絡等会員としての義務は確実に履行される様お願いしたいと思います。

この積極的な支援こそが各理事が自分がクラスの代表である事の認識を深め、会の運営に対する意欲を湧き上がらせて会全体の活動を盛り上がりさせる原動力となるものであると確信しています。

一方、未だに会費未納者が多数いる事は非常に遺憾に思います。

この事は同窓会の運営に対し、単に運営費の問題だけでなく無理解と非協力の現われと私達役員には解釈され、運営に対する意欲を阻害するものであります。

該当する方には猛省を促したいと思います。

現在の同窓会の業務の主なものとしては、

◎会員相互の親睦を深める為、年1回総会及び懇親会を開催する事。

◎会誌及び同窓会だよりを発行する事。

◎名簿の追補、訂正を随時行ない、常に最新の名簿を用意しておくこと。

◎各地方の会員同志の親睦を計る為に支部結成を推進すること。

◎組織の見直しと改善を計ること。

この他にも数多くあり、又クラス数も増えている為、仕事量も非常に多くなってきています。

今後の運営に於ては、私達の同窓会は単一の期、或いはクラスの同窓会ではなく、全ての期、全てのクラスの集合体である、との原点に立ち返って、業務を極力各期、各クラス別に分担してゆきたいと思ひます。

名簿関係の業務については既に各クラスの理事が自分のクラス分を責任範囲として、行方不明者の調査や変更者の訂正等を行なう態勢ができております。

名簿関係は特にクラス別にした方が仕事がやりやすいという事からこの態勢にする事が推進されたのですが、今後は他の業務についても極力この方式を推進してゆきたいと思ひます。

私達の同窓会の実情についてとりとめのない事ばかり書いてしまいましたが、最後に歴史的な観点から現在の同窓会を眺めた場合、私は一つの転機に立っているものと思われます。今までは比較的会員数も少なく、少数の役員が努力すれば何とか運営できる状態でした。しかし会員数は毎年増加し、それに伴って仕事量も増加してゆきますので、現状のままでは全体のまとまった活動は次第に困難になり、役員の数が増えてもそれはかえって理事会の動きを鈍くするものになると予想されます。

会員数の増加に関係なく、安定した組織をもち、十分な活動のできる沼津高専同窓会を作る為には現時点で組織と運営方法の見直しを行ない、改善を行なってゆかなければならないと思ひます。私は残された任期をこの仕事に重点を置いて他の役員一同と共に努力したいと思ひます。

高専制度の未来像

学校長 樋口 泉

1 序 着任以来高専制度が技術者養成機関として社会に定着するためにはどうすればよいかを探究してきた。現在の社会の一部には、家屋敷を手離しても息子だけは大学教育を受けさせたいという、いわば大学への過信、あるいは狂言的な風潮が強いときであるから、高専教育の独自性を主張してもなかなか大きな声にはなり難い。このために時流に順応して高専の名称を大学に変えようという主張も少なくはないが、客観的にはその実現の可能性はいまは多くはないし、名称変更は本質の問題ではなく、単なる時流迎合といえなくもない。

大学には研究教育機関として立派に機能しているものも少なくはないが、世の親がみさかもなく狂信しているほどの機能を果たしていないものも少なくないことは明白な現実である。大学の自治・学問の自由の名のもとに殺人さえ平気で行なわれる学園／それは学園の名に値するとは思われない。そのような学園に社会的な批判が厳しく行なわれず、喜んで子弟を入学させるという傾向は大学の存在意義さえ忘れてのではないかと思う。私は卒業生諸君の活躍の実績によって、高専への社会的認識が早晚変らざるを得ないと希望をもって期待している。

したがって高専としては、その独自の特徴を発揮していくことが、かえって高専の将来のためによいのではないかと思うのである。

高専教育の独自の特徴は何であろうか。前号で初期の高専卒業生への社会的評価の概要と、それに対するコメントを述べたときに技術者養成における高専教育の特色は実験、実習を重視していること、特に低学年からそれを実施していることにあるのではないかという問題を提起しておいた。その後本校教官と討議したり、先輩校長と懇談したりして、確信を強めることができた。教育の効果を考える上では、学生に及ぼす教官の熱意と人格的影響とが根幹であることは言うまでもないが、文科課程に現われている教育の内容・方法を含めた教育の理念を無視することはできないであろう。前者がより本質的なものであるが、後者には客観的な特徴を見ることができよう。これをもとにして高専教育の未来像を画いてみることにする。

2 高専卒業生の数 まず将来の高専卒業生の比率を考える。1974年度の統計によると、我が国の高等教育機関の在学学生187.6万の内、高専生2.6%、短大生16.4%、大学生81.0%と高専生の数は極めて少ない。しかし技術系の学生のみ限定すると高専生は13.2%になる。また毎年の技術系卒業生について統計をとると、高専10.6%、短大3.4%、私大64.4%、国大21.6%、さらに国立に限定すると高専25.6%、短大6.5%、国大67.8%、比をとると、1:0.254:2.65となる。高専卒業生は4万余名に達したが現在の技術者の中では極めて少数派である。しかしこのままの率で卒業生が増加すると20~30年後には国大卒に比してほぼ1:3以上になる。これでも少数派かもしれないが、一大勢力になることは間違いないし、工学部と高専は技術者養成の二本の柱といえることができる。

3 高専教育の特徴 昨秋本校を中心に取材したNHKの“高専教育について”という教育番組を視聴された方も多しことと思う。最後の座談会に当時朝日新聞論説委員として出席された永井道雄氏は、高専教育に対して最も深い理解を示され、多くの視聴者に感銘を与えたことと思う。同氏は数年来まで東京工業大学教授で、多くの著書によって知名度の高い教育学者である。その永井氏が文部大臣として本春の高専校長会の冒頭大略次のようなスピーチをされた。

高専は日本における高等教育の多様化を旨として生れた。しかし多様化には消極的多様化と積極的多様化とが考えられる。消極的多様化というのは大学卒より少し低い程度の技術者養成をめざすという考え方であり、積極的多様化というのは日本の高等教育に新しく体験教育の道を開こうとする考え方である。教育はもともと体験を通して行なうべきものであるが、日本の高等教育ではとくに頭脳訓練に片寄りすぎているきらいがある。教養といっても単に抽象的な知識の粋を抜けることに考えられがちであるが、これは必ずしも本態ではない。生活体験に即して知識、識見を高めていくことが、真の教養といふべきものではないだろうか。特に専門教育においては手を汚し、体験を通して学んでこそ独創性のある専門家

が養成される。

以上は予定を超過して20分間にわたる異例の文相挨拶の概要をメモを基にして私流に再録したものである。昨秋のテレビで高専教育の一端を見聞され、教育学者としての年来の特論の現実的姿を高専教育に発見されたことがこのスピーチの根底にあるようで、参会された多くの校長に深い感銘を与えたと思う。本校としてはテレビ取材に協力したことの意義をあらためて感じた次第である。

永井文相は教育学者の眼で教育の本質論から現在の高専教育に日本の新しい教育の道を見出されたものと思うが、これを科学、技術教育の面から少しくふえんする。

もともと自然科学、技術は自然現象に触れること、手足を動かすことから発生したもので、はじめから頭の中だけで生まれたものではない。したがって学習もその過程を通るのが本筋である。精選された項目の実験実習を通して追体験をしながら理論を学ぶことが最も自然な学習法である。もちろん現在の科学、技術の進歩は著しく高度の発達段階に達しているため、すべての理論学習を実験を基礎にすることは困難ではあるが、基礎的な事項を体験を通して学習しておれば、その何倍かの関連する事項の理論学習の基礎にすることが可能になる。したがって高専教育の方法が技術者養成の本筋に沿っているということができよう。

次の高専教育の特徴は15歳から技術教育を導入していることである。教育学者、あるいは教育評論家と称する人々の中には、一般教養を高めて後に専門に入る方がよいと主張する人も少なくはない。これらの人々の属する人文社会科学系の専門家、自然科学系でも医学の専門家である医師等では、広い視野の教養が必要であるから、それでもよいかもしいないが、技術教育を19~20歳から始めることが最良であるという根拠は確かではない。音楽や美術等で大成された方の多くは、幼年時代から技能的訓練を受けていることは明白な事実である。科学技術が長足に進歩発展した現在では、技術者に技能的訓練は必要がないという意見もなくはないが、多くの工業界の先輩はその重要性を認めている。ただ現在の大学における技術者養成では制度上それが不可能であるというのが実態である。これに反し手と足に、すなわち身体を通して技能を訓練し、その上に高度の理論を学習させようというのが高専における早期技術者教育なのである。

以上は教科課程にあらわれている高専教育の特徴であるが、教育の本質上教科課程を生かすも殺すもすべて先生次第であり、また一部はこれを受けとめる学生次第ともいうことができる。前述の文相挨拶の“多様化云々”の言葉を借用すると、これまで中学校の先生方および父兄の一部には高専を消極的にしか評価していない方も少

くはないと思う。しかし高専では創立以来実践的技術者養成を目標に黙々と実施してきた教育は正に体験教育であったと思う。10余年を経たいま積極的な高等教育多様化の意義をあらためて自覚すべき段階に達しているのではないかと思う。

しかし、教育方法が独自であっても、卒業生諸君が、それぞれの職場で発展できなくては意味はない。願わくは各位が不断の精進を重ねてそれぞれの職場で必要不可欠な人材として活躍されて、高専教育の真価を発揮し、諸君の実績を通して、社会の高専認識を高めることに寄与して頂きたいと思う。

4 結語 高専卒業生が社会（企業側）から高い評価を受けた理由を探究して高専教育の実態の中にある特徴をあらためて意識的に取出してみた。この高専教育の特徴は現在の大学における技術者教育では制度上実現不可能なものである。大学と高専は前述のように技術者養成機関として2本の柱であるが、高専はその独自の特徴を生かすことによって、その存在の意義を強く社会にアピールすることが出来ると思う。これが私の到達した高専の未来像である。

なお現在では科学技術の高度な発展により、世界的に大学院における教育が盛んになっている。日本では国大工学部卒業生の約20%が修士課程に進んでいるが、私大卒を含めると、推定ではあるが10%以下になるのではないかと思う。高専卒業生で勉強を続けたいという人の為には、技術科学大学院（仮称）が近々開設される見込みであり、当初は卒業生の約10%を収容する予定になっている。この大学院は現在の高専の教育理念を更に発展させるよう計画されているが、これが完成すると技術者養成機関としての高専の基礎は更に堅固になるものと期待できる。

(1975. 7. 8)



支 部 関 係



「支部設立推進」 について

支部設立の推進という事に対する考え方を詳しく述べますので各地の有志の方の積極的な努力をお願いします。

1 何故、支部の設置を推進したいと考えるのか。

私達の同窓会員は北は青森県から南は九州まで全国に分散し、社会の一員として働いています。

同窓会員の中には5年間一緒に学んだ事により気心の通じている友は大勢いる筈であるが、これらの友同志が卒業してしまえばよほど親しい友でない限り、まず顔を合わす機会もないというのが実情だろうと思います。

顔を合わす機会がなければ親しかった友も次第に疎遠になるのは当然であり、住所や勤務先が変わったりすればそのまま互いに消息もわからなくなるというのはごく自然の成り行きであると思われま。

この友達同志が互いに顔を合わす機会を作り、友達同志、或いは会員と母校との間のパイプ役となっているのが同窓会であります。

現在、同窓会は本部を母校に置いています、この本部だけで全国に散った友の全てに必要な便宜を計る事は不可能であります。

会員が一同に会して親しく語り合う機会として総会とそれに続く懇親会がありますが、これとて開かれるのは年に一度、それも都合が悪かったり、住所が遠かったりして出席できるのは全体の2～3割でしかなく、残り7～8割の者は互いに顔を合わす機会もないのであります。

せめて、自分の住んでいる地区の同窓会員ぐらひは互いにその存在を知り、顔をつき合わせる機会を持ち、私生活の面でも又、仕事の面でも互いに助け合い、協力し合ってゆきたいという気持は誰もが持っているのではないだろうか。

この目的の為、本部だけでは不十分な部分を補える組織として、支部の設立を推進したいと考えるものであり

ます。

2. 支部を結成する為にはどうしたらよいか

先ず発起人が必要であります。

自分が率先して支部を作ろう、或いは支部を作ろうとする人があるならば、その人に積極的に協力しよう、という気持を持ち、その旨を本部の役員の方へ連絡してきた方に発起人となっていただきます。

この発起人の人数は多い方が望ましいが、地区によっては1人しかない場合も想定されますので、1人でも止むを得ないと考えます。

本部の方ではこの申し出に基づき、隣接地区との関係も検討してその地区の該当者の中から、各期1名ずつの支部役員を推薦し、その方に趣旨説明と役員応諾の依頼を行ないます。この際は本部の各期、各クラスの理事が分担して行なう事になるので、自分のクラスの理事とは常日頃から連絡を密接にとっておいていただきたいと考えます。

ここで発起人のもとには各期ほぼ1名ずつの役員が揃う事になります。

発起人は各期役員の名簿案を作り、1度全員に集合してもらい各役員の確認と以後の支部の運営方法等について協議します。

同時に支部長及び副支部長を推薦し、全役員の名簿を作り、本部に送付する事によってここに支部が結成されたものとみなします。

3. 支部結成後の活動について

最初に行なわなければならない仕事は、2つあります。

1つはその地域の会員全員に通知して、支部発足の会合を開く事であり、

もう1つは並行して支部会員名簿を作成する事であり

支部会員名簿ができていない内に全員に通知は不可能と考えられるかもしれませんが、10周年記念の会員全員の名簿と会誌4号及び本5号の住所変更者名簿を照合すれば1部の行方不明者を除き全員の現住所がわかる筈で

あります。

少々面倒ですがこれによって各期役員が自分の期を中心に連絡をとって全員の集合する機会を作り、その席で支部長、副支部長及び各期役員の確認を行ない、以後の活動についても話し合うとよいと考えます。

名簿についても各期役員が本部の同期の役員と連絡をとり合って常に最新の勤務先及び住所のわかる名簿を持つよう努力していただきたいと考えます。

本部の方で会誌や名簿を発行したりする時、遠方の行方不明者を調査したり各種依頼をしたりするのは大変な仕事であり、このような面での支部の協力も大いに期待するところであります。

その他、結成後に本部で会誌を発行する時には支部結成のPRを行ない、以後も会誌発行毎に活動の紹介を行なう事を希望します。

以後の活動については、各支部によって会員数も各種事情も異なるであろうと推測されるので本部の方から特に規定のようなものは出しません。

各支部毎に支部長を中心に役員の間で協議しそれぞれの実情に最も合った活動をしていただきたいと考えますが要はその目的が同じ地域に住む会員同志が互いに顔を合わせる機会を作り、親睦を深める事にあるので少くとも年1回以上はそのような機会を作るように努力していただくよう希望します。

支部の運営が1年や2年ですぐに軌道に乗るというのはなかなか難しい事だと思います。本部の方も設立以来9年目を迎えてやっと軌道に乗り始めたと感じるような状態です。

あせらずに時間をかけて努力しましょう。

毎年着実に活動を積み重ねてゆけば次第に組織も充実し、現在の本部と同じくらいの規模の支部に成長するの夢ではないと思います。

現実に元浜松高専の同窓会は各支部単位でかなりの活発な活動をしており、我々本部の役員としても見習うべき事があります。

4. 最後に本部設立及び運営の為の費用について

会員は本部に一旦会費を納めている筈であるが、支部が設立され、支部会員となった際には改めて各支部で決定する支部会費を納める事を原則にし、これをもって支部運営上の各種経費に充当したいと考えます。

しかし、発起人が支部を結成しようとしてから、支部会費を徴集できるようになるまでにはかなりの期間と費用を要する筈でありますので、この期間の経費については本部の予算内から極力援助するようにならなければならないと考えます。

但し、その額は各支部の地域範囲、支部会員数、活動状況等によって必要経費が異なるはずでありますので本部の理事会で一応の目安を作り、各支部との間で協議して弾力的に運用してゆきたいと考えます。

各地の有志の皆さん、難しく考えたり、大袈裟に考える必要はありません。

同じ地域の会員と顔を合わす機会を欲しいと思ったら本部の役員へ連絡して下さい。

それが支部のスタートであり、その気持が支部を作るエネルギーとなるのです。

沼津高専 愛知県支部 発足!!

M2 板倉 幸雄
(旧姓中西)

12月10日前後だったと記憶しています。「武蔵精密の田原ですが」嫁さんでも決まったと思いました。「実は、年末にしようか、年始にしようかと迷っている」急な話だと思いましたし、あせる気持も分かりましたが、こんなことは、改まった気持の方がよいと思いましたので、新年の方が何かといいのではないのでしょうかといいました。「それでは、至急みんなに連絡して新年会ということできよう」と、聞いておどろきました。嫁さんの話ではなく、同窓会発足のことでした。

しばらく私のコンピュータの回路の切替に時間を要しましたが、結局、豊田と名古屋方面に私が連絡をとることで受話器を置きました。

田原さんは一期の先輩です。バスケットボールを通じて、めんどうをみていただいた人です。私は島根県で生まれ、沼津で学び、今は刈谷の会社に勤めています。入社当時、淋しくなって、会社が面白くなくて、田原さんに電話したことがあります。遊びに来いと云われて行き、飲めと云われて飲んで、それ以来こんどの仕事に失敗したら会社をやめてやると思いながら7年が過ぎてしまいました。

1月18日、豊橋市の「甲」というカニ料理の店が会場でした。トヨタ自工の「むつつり」の成沢君「むしろ」の滝浪君、等々、臨海寮で一緒にラーメンをかじった連中がいっぱいいました。

恩師の安土先生も忙しい中を豊田からわざわざ来ていただき、皆々沼津を一層なつかしく思い出しました。安土先生は入学以来、チモシェンコと寮の先生として、1期から3、4期までの機械科の連中には忘れられない

先生です。それに沼津から遠路、伊達会長に出席していただき、第1回の同窓新年会は盛大に始まりました。

私はあまりアルコールの好きな方ではないのですが、その場の雰囲気にはどうも酔ってしまったようです。皆が酔ったついでに、支部長と副支部長を選出しました。支部長に満場一致で田原さんが選出された頃には本当に酔っていたのでしょう。気が付いたら、副支部長に私になっていました。

二期の連絡責任者には、ブラザーの田辺君がなりました。田辺君はラグビーをやっているにはずい分お腹が出ていました。彼は、妻君と娘さんと今は半田市の方に家をかまえています。蒲郡市に子供の国という遊園地がありますが、そこで左の肩に弁当を下げ、右の手に水筒を持ち、また左の手に娘さんの手を引いている彼を見つけた私は笑い出さずにはいられませんでした。笑った私の手にも、2歳の娘がぶら下がっていました。

三期は陸上をやっていた沢崎周二君です。相変わらず、インドネシアの親戚に遊びに行ってきたように、元気そうな顔色でした。

三期には、豊田織機に行った岩田君もいたと思いましたが、今は三島へ帰ったのでしょうか。

四期の連絡責任者は永田君に決まりました。永田君は陸上を豊田工機でも続けているとのニュースは聞いていますが、となりの会社にいるにもかかわらず、一度も声をかけて来ないので「こら」と言ってやりました。

五期は稲吉君が決まりました。五期にもなると街で会っても、分からない人がほとんどです。こんど街で見かけて、知らん顔をしてたら「こら」と言ってやります。

六期は、中村仁君。中村君は私など思わず先輩かなと思ったほど、大きな声の人です。

七期は、OSGの市橋君。

八期はトヨタ自工の日吉君が決まり、ここに50年1月18日、正式に沼津高専同窓会愛知県支部が発足した訳です。

今後は、この同窓会の横のつながりを大切に、少なくとも年に一度は、都合をつけてラーメン仲間と会いたいと思います。

同窓会なんて、顔を出して酒飲むだけじゃないか、なんて……。顔出して酒を飲む、老人みたいに臨海寮の伝説を語り合う。

しかしその中に、「遊びに来い」「まあ飲み」といった理屈じゃない、何か暖いものを感じて生きていくのも、決して悪い人生ではないような気がします。

今後とも、沼津の本部を中心に同窓会が一層盛大になるように。

最後に、愛知県に勤務しておられる方、もしくは住所が愛知県内の方で、まだ愛知県支部会に入会していない

方は役員まで御連絡下さい。

| 役員名 | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 支部長 | 田原成人(M1) | 自宅0532-25-2595 |
| | 武蔵精密工業(株) MEL | 会社0532-25-1211 |
| 副支部長 | 板倉幸雄(M2) | 自宅0566-41-7290 |
| | 日本電装(株)生産技術部 | 会社0566-22-3311 内2337 |
| 理事 | 壁谷善一郎(M1) | 自宅0533-57-3409 |
| | 壁谷鉄工所(自営) | 会社 " |
| " | 田辺正幸(M2) | 自宅0569-21-5605 |
| | ブラザー工業(株)技術部 | 会社052-811-2511 内562 |
| " | 沢崎周二(E3) | 寮 052-621-5704 |
| | 大洋商事(株)出向 | 会社052-931-7151 |
| " | 永田勝久(M4) | アパート0566-21-2669 |
| | 豊田工機(株)技術部 | 会社0566-22-2211 |
| " | 稲吉敏郎(M5) | 自宅0533-57-3814 |
| | (有)稲吉工業(自営) | 会社 " |
| " | 中村仁(E6) | 自宅05359-4-2394 |
| | 神鋼電機(株)静止機部 | 会社0532-41-2121 内611 |
| " | 市橋秀和(M7) | 寮 053393-4225 |
| | オーエスジー(株) | 会社0565-28-0897 |
| " | 日吉圭三(E8) | 寮0565-28-0897 |
| | トヨタ自動車工業(株) 第2生技部 | 会社0565-28-2121 |



浜松地区同窓会 その後と今後

E1 田中昌一

前回にて紹介した、浜松地区の同窓会活動の続編という事である。が、正直なところ、その後と言っても思いあたるものは、昨年暮、例会どうりの宴席を設けたにとどまり、他にこれといって無いのが現状である。ただ注意したいのは、「その事だけ」が相変わらず行なわれている点である。

今日、必然的な卒業生の漸増による同窓会の膨脹に伴ない、同窓会本部によってなされる事といえば、全般的な事務処理と、儀礼的な同窓会総会等々にとどまるといっても過言ではないであろう。むろんその事自体、会が膨脹すればする程大変な作業である事は、論をまたない。ただ、同窓会の生ずる原点に立ち帰ってみれば、若干の矛盾感は拭いきれないのである。「去る者、日々に疎し」と言われるものの、5年の青春を共に過ごした彼の地と、そこに介在した人々の懐しくなろう筈はないであろう。

懐古趣味と、人はそれを評しても、また、人はそれを嘲笑う事はできないのである。

盃をとり、悪友達と語り、歌い、埋めてきた青春のそのわずか1ページでもひもとくことができれば、同窓会としての意義は十分ではなからうか。ましてや、友だちの未知の消息を知るの楽しいものである。

ともかくにも、このような会が、相も変わらず続けられているのは、仮に「その事だけ」の会でも賞讃に値しよう。

ただ残念ながら組織化されていない悲しさか、このような会の存続に若干の危機感がある事も確かなのである。これは、ひとつ浜松地区だけの問題ではないであろう。もし、同じような会が他地区にもあれば、やはり同様の危機感があるに違いないと想像される。

今後、同窓会活動をその末端にまで、神経の行き届いたものにするためには、各支部の正式な組織化を急がなければならないであろう。

さて、愚にもつかぬ同窓会論議の前置きはここまでとして、浜松地区の同窓会詳細へと稿を移してゆこう。前回にも述べたように、数年前より諸先生方に御参席をお願い致し始めたが、仲々の好評を博しているようである。昨年を例にとって紹介すれば、岡田、野中、渋谷の3教官においていただいた。各先生とも高専創設期を歩まれた方々である。

岡田先生の、あのいつに変わらぬオカグスマイルに、

年月の経過を忘れさせられ、野中先生の「イエスベルセン」と「クイントリックス」をとりまぜた格調高いスピーチに、一段と酔いが深まり、翌日も終日、2日酔いに悩まされた輩がいたとか。また渋谷先生の、卒業以来久しぶりに接した、真摯な姿勢と談話に、襟を正せられる思いをしたのは、一人小生だけではないはずである。かくして、もの哀しくも騒々しい交歓の夜は終宴したのであった。いずれ今年も同様な事が、飽く事もなく行なわれるのであろう。選考委員の苦心による、御出席依頼状が届いたあかつきには、後日の語り草にされるべく、是非其の来浜を紙上でお願いする次第です。

同窓会も回を重ねる毎に、歳月は容赦なく着実に経過し、当時20歳の若者達の肉体には、過ぎ去った時間が確実に刻み込まれ、それぞれの若者達はあるいは老醜化し、あるいは肥満化して、青春も想いでも遠ざかっていくのであろう。猛烈社員も今は昔とはいえ、乾燥した生活の多い中で、そのような青春や想いで呼び起こし、ひとときのやすらぎを見い出せるような会であって欲しいものである。

そのためにも、各支部の組織化は急がれる必要があろうし、また会員相互の縦横の連絡ラインを確たるものにならなければならないであろう。ただ、こうして書いているうちに、ふと感じた不安は、組織化とともに、あの甘酸っぱい「もの哀しい騒々しさ」も、規格化されてしまうのではなからうかという事である。

杞憂、そして乱文を謝。 完

〒430 浜松市和合町779





職場における高専生

パワートロニクス の 明電マン

M1 鳥村 俊

重電機器とエレクトロニクスの総合プラントメーカーの我が明電舎グループを紹介する。

私の後、2期は無く、3期は小池、4期は高橋、5期は小川、6期は木戸、森田、渡辺、7期は大浜、8期は木村、長倉、菊地、長谷川、9期は大沼、長倉の計14名が活躍している。各人の働きぶりは別に文章をいずれ出してもらうこととし、全般的に話をすすめて行く。

大卒と高専卒は案外区別がつく。まず色々な面で若い事、仕事の鬼であること。たとえば大卒はまず私生活及び自分の会社での将来の位置づけから考えが出發し、社会的に広い物の見方から仕事を着工する。高専卒は仕事に即とびつき、がむしゃらに体をはって突っ込んで行き、私生活はそのあい間にはさむ。

ある大卒者が言った。「高専生を見ていると恐怖である。若手将校という感じで、突き進む。いったいあの人種は何のためにそうするのか？」と。「戦争をする必要があるかどうかを考える人種と戦争を勝つにはいかに進めるかを考える人種の違いである。」と。

そういう目で見るとなるほどなと思う。

幸いにして沼津高専のメンバーは、仕事中はバリバリやるが、けっこう余裕を感じさせる者が多い。「若い時の遊び方で将来がきまる」とも言われているが、遊びを知らない高専生よどこへ行く。

当社には、私と東京勤務の2名を除き、沼津に有り、週休2日だから入社したと言う者が多い。今年の子新入社員の入社理由の第一が週休2日だからと言うことで75%を占めていた。当沼専卒はそれ以上の%である。なぜ他高専卒と違い余裕のある仕事ぶりをしているかは想像できよう。

最近では少しきびしくなっているが、やはり技術屋天国で、人間性豊かな会社である。試験課を除いては、仕

事がきつすぎて逃げ出すという言葉はまず出ない。注文品がほとんどなので、常に新しい技術、アイデアをとり込む事が出来る。だから案外自分の好きな事をやれるチャンスが多く、深く突込むとすぐにオーソリティーになれる。時間中も上司の目がうるさいと言う話はほとんど聞かえない。何しろ技術屋天国を謳歌して来た人達が上司なのだから。

よく沼津高専から見学に来るので、技術屋天国であると言うと、入社希望が増える。が、しかし、待遇については質問が無い限り絶対に言わない。少しでも待遇改善をしてもらいたい所だが、1日の起きている2分の1にあたる8Hを締めつけられてまでして改善してもらうことは好ましくないの、強烈には言えない。1カ月1回よけいに飲み楽しむよりは、200Hを楽しむ方がよいから。でも最近はきびしくなってきた事はたしかである。

我が沼専グループは学生時代どちらかと言うと教授連から記憶されている野郎殿が多い。(よく勉強したのかそれとも、その反対に……)しかしこれが以外や仕事では各部所のエキスパートとなり大活躍している。(と、本人達が言っているからまちがいない。)

今年も新人2名が入って来たので、その実習の間に、沼専の歓迎会を行なった。残念ながら、先輩達が急に出張で行ってしまったため3分の2しか集まらなかったのが9月頃、一泊で沼専会を行なう計画をしている。現在不況の嵐の中で、営業や工事関係に配転させられる者が多くなっている、今年の新人はどこに配属されるやら。いずれにせよ沼専生の実力を発揮願いたい。

当社では旧浜松高専(現在の静大工学部)卒の役職者が多いので、木戸、深尾教授達をなつかしむ話題が出て、仕事上のつながりをつけやすく、親しくしてもらえるのが幸いである。ただ今後入って来る電気卒に御忠告申し上げるが、当社より外来講師が行っている、まかりまちがっても代返などで逃げ出さない様に。他課目は実力通りで良いが、この課目だけは良い成績を納めた方が、後で気まずい思いをしないですむ。

色々とりとめも無く書いたが、沼津在住者が多いので、

今後本人達のペンを通じてさらに各人の持ち味を、この会誌を借りて発表してもらおうつもりである。御期待願いたい。何しろ自称エキスパートばかりであるから。

〒410 沼津市足高294-74
沼津鉄工団地内

昌和製作所における 高専卒業生

M5 堀井 常雄

最初に我が昌和製作所の概要を説明しますと、ヤマハ企業グループに属しており、沼津市にあり従業員約800名で主としてヤマハのオートバイ、スノーモービルを製作しています。

現在、沼津高専機械科卒が10人います。そして、最も興味深い待遇について大卒と比較しますと、2年という年令差があるだけと思っています。昌和に入社した高専卒で退社した者がいないのを見てもわかるように、私たちは沼津高専卒であるという誇りを持ち胸を張って歩いています。そして世間一般に言われている高専卒の短所である、積極性がない、社交性、指導性がないと言われ

ることに反発を感じ、常日頃「短所をなくすのだ」というファイトを持ち仕事にレジャーにがんばっており、高専卒の真の評価がおりるのを待っています。

続いて昌和に勤めている沼津高専卒を紹介しますと、M1平野、高橋、M2久保田、M4望月、M5堀井、M6平井、M7山本、大庭、M8青木、M9小野の以上10名です。そして「高専会」を作り3ヶ月に一度ぐらい集会を持ち企業における高専卒のあり方、また我が昌和製作所のあり方などの相談を行なっています。また新入社員の歓迎会や忘年会などの親睦会も行なっています。そして昌和におけるクラブ活動の部長になっている者もいるし、宴会責任者になっている者もいます。このように昌和は高専卒の時代になりつつあるし、またしなければいけないと思います。

以上述べてきたことをみますと、昌和は高専卒の天国のようですが、必ずしもそうではありません。それは他の企業の例にもあるように高専卒の待遇が低下しつつあることです。それは卒業生みんなが感じている実力の低下であると思います。最後に将来卒業され社会に出てくる後輩のためにも、また我々自身のためにも一生懸命がんばろうではありませんか。

〒410 沼津市今沢165 今沢寮

第13回東海地区高専大会観戦記

C2 中村 誠一

総合成績表

| 種目 | 順位 | 優勝 | 2位 | 3位 | |
|----------|------|---------------|----------|----------|----|
| 陸上総合 | | 豊田 | 鈴鹿 | 岐阜 | |
| 水泳総合 | | 沼津 | 鳥羽 | 鈴鹿 | |
| 卓球 | 団体の部 | 沼津 | 鳥羽 | 鈴鹿 | |
| | 個人の部 | ダブルス 森原・芝崎(鳥) | 酒北・浜口(鳥) | 河西・稲葉(河) | |
| 軟式野球 | 団体の部 | 沼津 | 豊田 | 岐阜 | |
| | 個人の部 | 成瀬・三好(岐) | 稲村・小栗(河) | 中川・小川(鈴) | |
| ハンドボール | | 鳥羽 | 豊田 | 沼津 | |
| バレーボール | | 豊田 | 岐阜 | 鈴鹿 | |
| サッカー | | 沼津 | 鈴鹿 | 鳥羽 | |
| バスケットボール | | 岐阜 | 豊田 | 鳥羽 | |
| 柔道 | 団体の部 | 全国大会予戦 鈴鹿 | 沼津 | 鳥羽 | |
| | 個人の部 | 勝抜戦 | 鈴鹿 | 岐阜 | 鳥羽 |
| | | 軽量級 | 中田(河) | 武(河) | |
| 剣道 | 団体の部 | 中量級 | 池田(鈴) | 篠崎(鳥) | |
| | | 重量級 | 石井(鳥) | 大須賀(河) | |
| | 個人の部 | 全国大会予戦 鈴鹿 | 鳥羽 | 豊田 | |
| 硬式野球 | 勝抜戦 | 鳥羽 | 沼津 | 岐阜 | |
| | 個人の部 | 糸魚川(岐) | 萩(岐) | 近藤(豊) | |

軟庭…7年ぶりの団体優勝成る サッカー…辛くも2連勝 卓球・水泳…快勝

第13回東海地区高専大会は7月12、13日に岐阜において行なわれ、陸上を始めとして11種目に熱戦がくり広げられた。あいにく12、13日は雨天のため軟式庭球と野球は延期となり、軟庭は26、27日、野球は8月5、6日に新たに行なわれた。

12、13日はまだ梅雨あけきらぬうちに試合が強行されたため、陸上・サッカーは全身泥まみれとなり、最悪のコンディションであった。また室内で行なわれた競技も蒸し風呂のような中での大会となった。

さらに延期となった軟庭、野球は真夏の炎天下の猛暑の中での試合となった。

その結果は次に示すような戦績となった。

種目別競技（沼津のみ）

陸上

| | | | | |
|-------|----|----|----|----|
| 1500m | 2位 | 小出 | 3位 | 志村 |
| 5000m | 2位 | 志村 | | |
| 走幅跳 | 3位 | 藤田 | | |
| 三段跳 | 1位 | 高橋 | | |
| 砲丸投 | 2位 | 高木 | | |
| 円盤投 | 3位 | 高木 | | |

水泳

| | | | | |
|------------|----|----|----|----|
| 400mリレー | 2位 | | | |
| メドレーリレー | 1位 | | | |
| 800mリレー | 1位 | | | |
| 100m自由形 | 2位 | 前田 | 3位 | 加藤 |
| 200m自由形 | 3位 | 前田 | | |
| 400m自由形 | 2位 | 東 | 3位 | 山崎 |
| 100m平泳 | 1位 | 松永 | 2位 | 平垣 |
| 200m平泳 | 2位 | 平垣 | | |
| 100m背泳 | 3位 | 栗田 | | |
| 200m背泳 | 3位 | 山下 | | |
| 100mバタフライ | 2位 | 八木 | | |
| 200mバタフライ | 2位 | 八木 | | |
| 200m個人メドレー | 2位 | 鈴木 | 3位 | 山下 |

昨年団体では2種目に優勝という結果であったが、今回は水泳・卓球・軟式庭球・サッカーと11種目中4種目の優勝を勝ち取り、沼津の健在ぶりを示すものがあった。

特に軟庭においては実に7年ぶりという快挙であり、高いレベルの東海地区において学生、OBが一丸となってあきらめずに練習に励んできた成果が十分に表われた。

結果は沼津、豊田、岐阜の3校が3勝1敗で並び総勝組（勝点）でも、ともに同数となり、かろうじて総勝セット数でまさり、辛くも念願の団体優勝を達成した。



喜びの軟式庭球チーム

サッカーは昨年全国大会3位という実績があったが5年生が数多く卒業したため、かなり苦しい試合となった。しかしやはり試合巧者沼津だけのことはあり、決勝においては試合終了間ぎわ、5年生の同点シュートが決まり、延長で逆転し、みごと2年連続優勝にかがやいた。

卓球は初戦、強敵鳥羽と当り、事実上の決勝戦となり白熱した好ゲームとなった。対戦成績2対2のあと沼津はエースが出場し、辛うじて初戦をものにした。この勢いに乗った沼津は他3校をものともせず快勝した。



卓球 沼津強し、快勝する。

水泳においては、選手層の厚さを誇る沼津が昨年優勝の鳥羽を退けて、団体でみごと優勝した。特にリレー種目の健闘が大きかった。

また個人別競技では卓球、軟庭、柔道での健闘が光り、水泳は全種目において堅実な強みを発揮した。陸上競技では三段跳に大会新で高橋君が優勝したがその後は振わなかった。



三段跳 大会新で優勝成る。

その他の種目においては、かつて強豪と言われた沼津も今回はバツとしなかったが、巻き返しをねらっており今後期待したいものである。

〒410 沼津市大岡3873

同窓会誌によせて



旧 教 官

所 感

組 岡 辰 三

本校の教官からコンサルティング・エンジニアに転身して既に2年半、幸い健康に日々を送っています。卒業生諸君も社会に出てから、元気に活動しておられることと思います。私も自分の目指している仕事の本質が、最近漸く分りかけてきたところです。

私の今の職業は所謂自由業で、自分の考え一つで万事が運べる訳ですが、目下エネルギー問題に関心を持ち、ある技術の開発を手がけかけていて、毎日頭の中は、学校在職中よりもいそがしい位です。

今まで本校の卒業生諸君は、高度成長時代に世の中に出て、割合スムーズに就職してきた訳ですが、ここ一兩年ですっかり社会の動向が変り、世相には不況の影をなげかけていて、今後はそれぞれの立場で、随分困難にも出あうことがあろうと思います。その中を諸君達が乗り切るためには、身心ともにタフであることと、誠意と努力が必要です。

私の人生観、社会観、職業観からいって、諸君達に望みたいことは、まず自分の仕事、または生き方に、自分なりの哲学または思想を持ってもらいたいことです。これがない人の一生は夢みたようなものに終りかねないからです。

次に世の中の仕事を処理していくためには、目的と手段を混同しないことが大切です。例えば教育の仕事は、まず人を育てることが目的であり、教えることはその手段です。ところが実際には目的と手段のとりちがえがよくあり、教えることしか念頭にない教育は、知識の切り売りといわれても仕方ありません。

人間の身体の病気は、医者がなおすのではない。病気

をなおすのは、患者自身であって、医者はその手だけをやるだけだといわれています。

人間の成長もこれと同じであって、人はまずしつけの形で家庭教育をうけ、次いで学校では、社会、人生に処するための基礎教育が行なわれていますが、学校は要するに学術を学ぶ所だといわれています。

諸君達の大部分は、会社にはいってから、私の生産工学の講義でも話した如く、何等かの形で企業内教育訓練を受けている筈です。今日生涯教育の必要が唱えられています。人は一生は自分のために、自らを育て上げる努力の継続に終始するのが建前でこれを怠ると人間としての成長が止まってしまう。

同窓会の幹事から、寄稿の依頼をうけ、私の日頃考えていることを述べて、その責を果す次第です。

教 官

十 年 一 昔

岡 田 泰 栄

昭和37年、本校創設と同時に勤務してから、いつの間にか14年たちました。自分の教職生活からいっても、ここで大半を送ることになりますが、全くアツという夢の間のできごとでした。停年まであと3年、有終の美といわないまでも、大過なく役目を終りたいと思います。

最初の1年は、金岡中学内仮校舎での授業、臨海寮での宿泊、静岡からの通勤など、手さぐりで苦しかったが、なつかしい思い出です。

今日、このように立派な校舎や施設、住宅、その他環境も整備され、授業内容も、私生活も豊かになり、10年一昔以上を、まざまざ悔いなく過ぎて参りました。

「最近の学生は質が落ちた」という人もありますが、一概に賛成はできません。それは、志願者が十数倍あった最初の頃に比べて、優等生の数は少なくなったか

も知れませんが、伝統は衰えず、大部分は真面目で、熱心に勉強し、運動している、人柄のよい学生達です。

ただ以前のように、エリート意識というか、高専生であることの誇りと感激を感じなくなっているものがあるのは残念です。苦勞して生き抜いてきた頃に比べて、独創性が失われて来たような気がします。それは、自主性のない平生の生活態度にも感ぜられますし、高専祭や寮祭の催し物にも、人まねだけのマンネリズムが現われます。

考えようによっては、このことは、時代の流れともいえますし、あるべき姿に落ち着いてきているとも思えますが、私達、教師にも反省すべき点が多いことは事実です。初心に帰って、新鮮な瑞々しさと、積極的な推進力を取戻したいものです。

長く勤めていたお陰で、卒業生から年賀状をもらいます。それも、はじめの頃の人が多いことは、前記の状態を示す一つの現われかも知れません。昔の教え子から、なつかしい賀状がもらえることは、教師の特典として嬉しいことですが、物足らぬ感じのものもあります。せっかく、年に1回の便りですから、

謹賀新年 住所氏名

だけでなく、近況を少くとも勤務先ぐらゐは併記して欲しいと思います。これだけでは、生きているな、とわかるだけです。

時に、学校で習った「統計」の授業が役立っているといってくる人や、問題を持って質問に来てくれる人があって、生き甲斐を感じます。私の方も、本だけで習った内容が多く、現場の仕事に実際活用されている状態を知って、即応する方向を開いていきたいと思えますから、卒業生の方から御連絡いただければ幸いです。

今年は1年電気科担任、久し振りで可愛い純真な顔ぶれで、悪ずれしないよう新鮮に育てたいと思っています。

十年一昔

—— 開校記念日漫談 ——

市川良輔

(その二)

[前号続]

これに対して学生たちそのものの一年目ごろはどんなだったでしょうか。時間もありませんので、学生の物言

いをいそいで読みますと、「早くも一か年、身についた高専生らしさ」というリードで、たとえば、

「MB、SK。毎朝、教科書一杯つまったカバンをさげてバスの停留所へ急ぐ。学校へ行き、家へ帰る。五時前まで毎日まるで時計の針を追い廻しているみたいだ。今日が何日かわからないことがあるくらい、一日が早く過ぎる気がする。学校での生活は約七時間だが、上級生がいないせいか、なやみ困ったことはない。全校生徒といっても一年生だけだが百三十二人、みんな愉快的仲間ばかりだ。朝と昼休みに二台の卓球台が解放されているのでみんな列を作って順番を持つ。ぼくも卓球は好きなのでやるが、勝ち抜いて夢中になっていると、窓の外は寒い風が吹いていても汗びっしょりになる。先生方はみんな立派な方ばかりなのだが、かえって中学校のときのような気軽な授業態度は出来ない。ちょっとショックだ。だがぼくは出来るだけ頑張っている。

校長先生が「人がらのよい技術者」といつも云われる。ぼくもこのことばを何時も胸にしまい、そのもとになる健康な身体と雅量ある心の育成に努力している。……その次に狂歌『世の中に絶えて試験のなかりせば高専ほどによきところなし』……と。」

ま、この狂歌とそれから、狂歌といえますか滑稽和歌といえますか、面白いのがあります。これはたしか朝比奈先生が学生に作らせたもので、マラソン大会のあとの甘酒会というのがありまして、ここにもその写真がありますが、一期のころのマラソン大会はそのあとで、今はキャラメルですが、そのころは甘酒が出て、校長以下教官職員が集まって甘酒の、何て云いますか、コンパをやって、その時この狂歌狂句の傑作の幾つかが披露されてそれを新聞に載せたんです。この中では全国高専に知られた狂歌もあります。たとえば、こういうのがあります。

「金もなし喰えなしもてなし遊べなし、されどあるのは赤き点のみ」——

もう少し学生の物言いを読んでみますと、「おどろいたことに、入学するやいなや、落第のことを考えさせられたのだから尋常でない次第だ。一科目赤点をとると、ハイもう一年というきびしさだ。他校のように先生が擁護してくれないようだ。といっても、そうたやすくポンポン落しはしないだろうな。そんなことしていたら五年間たつうちには下級生の数がどんどん増えてしまうからな。ぼくなんか少しヒネている方だから別に深刻には考えていない。適当に遊び適当に勉強すればいいんじゃないかな。五十分授業だから普通の長さなんだが、考えることが多くタイクツするひまなんか全然ない。むしろむずかしくてわからなくてタイクツになるく

らいだ。勉強の程度も中学とはワケが違う。同じだったら高専の価値はない。狂歌——

学生に「不可」ほどいやなことはなし

「落第」と云うて上にすすめず ——

先刻云いましたように、「甘酒の匂いを求めて一すじにつられて走る今日のマラソン」「運動場なくてマラソンばかりなり」、実際こんなでした。

「E—電気工学科のYA。高専に入学出来てほんとうによかったと感じたことは、ゴテゴテ勉強しなくてすむということである。中学時代からの夢はこれだった。しかし中学時代と違うことは、何とかごまかすということが全く出来ないことである。寮に入ってそのことが痛感される。それは、少くとも寮の中では共同一致ということが大切だということだ。勉強するにしても、わからない時はノートを借り質問しておぼえなければならない。そうしないではいられない気持ちになったことだ。とにかく高専生となって大いに人間的に成長出来るような気になれたのを幸いだと思う。……」

まあこういうようなことで、当時は寮も臨海寮といまして、千本浜の既設の建物を借りた、やはり木造の、みずばらしい寮だったんで、われわれが宿直して冬之夜でも風が吹くと天井の隙間からばらばらと松の枯葉が落ちてくるほどでしたが、ここに「臨海寮哀歌」というのがあります。一つ二つ読んでみます。

「千本の松風とともに一未開人の現象?、AA。沼津高専臨海寮に我あり。いたって健康にして旺盛なり。而して時に未開人の生活様式をもつて今そのズレた生活を紹介する。

先ず7時(誤差1時間)に起床。大いそぎでツラを洗いキバをみがき、そして生きていることの最大の目的であるメシを5、6分でたいらげる(喰べてしまったあとのはかなさよ、クシュン)。そしてところでん式生理現象か、そしてあそこへ直行。そこは早くも満員御礼(わが寮友も同じか、いわゆる必然の結果?)。そこはまた愉快的なんだ。あちこちで妙な騒音を発するんだ。何しろ日曜でもないかぎり、しみじみとタンノウしているひまなんかない。すでにスクールバスの来る時間である。とび出すやいなや電光石火で教科書をカバンにつっこみ上衣のボタンかけながら靴をつっかけ帽子片手でバスの座席を確保するまで一息。乗ってしまえばともかく学校まではこっちの天下、寮生の特権とばかり沼津駅で教官や通学生が乗るがどうもゆるずる気にはなれない。今のうちから出来るだけ腹の虫をおさえておかなければと思うので、だが、それも大した効果なく、授業開始後二時間目ごろまではかえって昨夜の寮での珍談漫談奇談XZ談(XOZであることに注意)の夜ふかしがたたって、眠りの虫

の勢いが強いが、果然三時間目あたりには猛烈に腹の虫が怒り出すのだ。通学生と違って寮からの弁当は正直に昼食時でないとか着かないので……。臨海寮の松風よ、この思いを知るや知らずや、今日もまた無情に吹きつものよ、チャルメラチャルメラ、ああ。……狂句——飯まだか手紙はまだか金まだか——洗濯にしみじみ浮かぶ母の顔—狂歌。真夜中の静けき部屋に目はさめて朝までもつかとわが腹に問う——かなしさや空腹つづく寮生の眼はらんらんと食欲に燃ゆ——

一期の学生、開校の年の学生たち、つまり諸君にとって最も古い母校の先輩たちが、大たいこんな感慨こんな気持ち、あえて云えばこの様な意気と情熱とも解される心情にあったということが、十年たって新しく設けられた開校記念日のかたじけなくして、何かいささかでも諸君の心にとどまるものとなってくれれば幸いだと思ひ、報告しておく次第であります。

さて、もうマンジュウは到着していると思いますが、予定された時間がまだ一寸ありますから、前言しましたように、開校記念日にちなんで本校の校歌についてこの機会にごくかいつまんで解説弁明をさせていただきます。くわしいことはこの「十年誌」に書きましたので、ここではそれにとづいてやや朗読調になりますが要点だけを申し上げます。

私のような者が校歌作詞の榮譽に浴し、私にとって永遠の光榮とほまれであります、その私をして言わしめれば、校歌の出来たのは、端的に一言、井形校長の人徳と諸先生方の協力のたまものであります。私は校歌作成の責任や自覚を思うとき、けっして自賛でも自卑でもなく、井形校長はじめ諸教官への感謝を申しねばならぬということ、いつも思ひます。このことはやはり沼津高専新聞の創刊号に、「責任と自覚を歌おう—校歌成る」という見出しで、当時の学生や学校関係に一般に公的に紹介された最初のものであり、私の考える作詞の意図や意義として隠面もなく述べられていますから、またこれを読んでみます。

「校歌作詞者として市川良輔記。作詞にあたって最先に考えたことは、校歌というものの本命や理想は何かということだった。貧弱な素養や乏しい作歌経歴からしても、とても身に過ぎたことなのだが、ともかくこの自分がいつわりなく沼津高専の一員であるという現実の立場と分限から、これも当然の責任だと自分に言いかけ、むしろつつましく愚鈍をさらけ出すつもりになって校長先生以下の批判と協力にまかせた次第だ。幸いな名だたる作曲者の名譜を得て本当に幸福だと思ふ。僕は校歌の真の意義は、この校歌を歌うことでわれわれが、天下の、日本の、国中が期待している、まぎれもない沼津の高専

生だという理想や自覚、責任やほこりに団結できることにあるのだと考える。朝夕眼前に日本の象徴富士を仰ぎ、天地の真唯中に伸びいそぐ『小林の丘』、全国高専でも第一等の環境風物に恵まれ、しかも今、国の要請と待望の工業振興の原動力たるべく、井形校長が説く『人からのよい工業人たれ』の校是のもと、豊かな人間性と確かな技術を磨く若い五年の春秋、この高専時代教育の基礎が堅く結実すれば、やがてそれが科学のみち一すじに生きる永遠の彼方に連ならずにはいまい。学生諸君よ、一人一人が、日本の工業をおこす自覚と責任に生きよう。それあってはじめてわが母校は日本全国に冠たる沼津高専なのだ。晴れやかに誇り高らかに歌おう。それこそが、正にわれわれ第一期教官誰もの願いであったことを、僕はひそかに云い切りたい。

なお私事で恐縮だが、実は先日はじめて作曲の渡辺先生に電話で挨拶したところ、ゆくりなくも先生が、ぼくの折口門で修業時代から私淑する先輩あに弟子方と旧知の間からとて、身に余る賛意と共感のことばをいただいた。よき作曲者を得た光栄にくらべて、それが偶然とはいいながら因縁浅くなかったことを知り得て、ぼくはもう感謝の念で一ぱいである。

校歌作詞作曲者の紹介。作詞者市川良輔、本校教官、国学院大学国文学部出身、北原白秋系歌人穂積忠により釈道空折口信夫に師事、歌誌とりふね同人として全年刊に作品発表のほか、穂積忠歌集『叢』を編纂し、『穂積忠の生涯の歌』『釈道空の歌の成るとき』等を短歌誌に所載その他。――

作曲者渡辺浦人。音楽家、上野音楽学校出身、昭和十六年交響組曲『野人』で文部大臣賞受賞のほか、オペラ『大伴家持』を歌舞伎上演、皇太子御成婚祝典歌作曲、昭和三十一年国際音楽民族会議に日本代表としてオスロへ派遣その他。――

もちろん作詞の原案は井形校長から数回教官会議にかけていただき、その折々に諸先生から幾つかのヒントを含んだ疑義や批判、同意等々の意見や提案をいただきましたが、これは最初私自身、一期教官の合作にしたいと申し出たことでもあり、このことだけでも今もって有難く感謝しているわけです。具体的なこまかいことはこの十年誌に書いてあるから省きますが、作詞の用語、内容意味についてこれだけは言っておきたいと思うことは、私が歌詞の中で「わが」という主語を強調したのは、学生、教官、学校関係者、すなわち沼津高専という一体が、そのまま一人一人の個人われであるという意識が強かったからで、それはそのまま「わが心直くゆたけし、わが腕さやけくつよし」であって、けっして或る主体が対象に対して「ゆたけくあれ」とか「つよくあれ」というよ

うに、教訓をしたり命令したりあるいは切望したりしているのではないつもりなのであります。私は校歌というものは呼びかけではなく、歌うもの自体の自覚でもあり本命でもありそしてほこりでもあると思っています。ともあれ作詞が完了しほご成稿になって作曲に渡すことになったとき井形校長がごく自然に、私に対して最初に云われたことが、何よりも「学生がよろこびますよ」ということばのくりかえしでした。校歌作詞者であり、その校歌を歌うであろう学生の教師である私にとって、この「学生がよろこぶ」という言葉の千鈞の重み、あの時の私の感激は、生意気な言い分ですが、私でなければ味合えないものだろうと思いますし、私は、人をねぎらうということは、その人をよろこばすことだということをしみじみ知りました。も一つやや手前味噌になりますが、「にっぽんの工業」が「ニホン」か「ニッポン」かは、作曲の都合をも予想はするものの最後まで迷いました。この言葉のゆれは日本語特有の慣用現象の一つで、私は自分の授業中にも話していたことですが、結局まあ当時の東大新聞の学生世論調査の記事や国立国語研究所の青年層語彙頻度調査の発表などから学生への心理的適応度として「ニッポン」が可であると決めたのでした。井形先生は私のこんな些少な一営為でも非常に高く共感を示されました。……

もうちょっと校歌制定までのそもそのことを申しますと、大たい創立開校の入学式があって授業が開始されて数日後に、井形校長から教職員一同が招待されて市内の花屋旅館かで最初の懇談会の一席が設けられました。何分にも始まったばかりの学校のことで、話題はいきおいああもしたいこうもしたいという抱負や対策に終始しましたが、もちろん校歌のことも当時深尾先生かの口切りで二三の先生方から意見や希望も少しばかり出されたようでした。私自身もまさか自分にお鉢が廻ってくるとはつゆ思わず、作家の井上靖氏が沼津に関係が深く、近辺の某高校が井上氏に依頼をして芥川也寸志との作曲のコンビで作成した例があり、井上氏と旧沼中時代の同級生で今も親しくしているという人が二人も知人にあるから、その人びとに作詞のルートや方法をあたってみてもよいなどと、意見とも主張ともつかぬことを口にしたのをおぼえています。そして井形先生は、校歌については考えていることがあるから、いずれ皆さんと相談しようと思っているということでした。これはその後になって、校歌を作れという先生の云いつけに対して、一度目の固辞の返事をしたとき、つまり辞退の返事をしたときでしたが、君が推薦する作家なり作詞家ならば十分適当であると信用するけれども、たとえ沼津市出身の大家でも本校そのものの事情は、本校に直接居るものが一

ばんよくわきまえているはずだから…というようなことをいわれて、しかも井上氏に対する私の敬愛の念というものを無言にくみとっていてくれたらしく、その年、井上靖氏と芥沢光治良氏の沼津文学記念碑の除幕式には、校長宛にきた招待状に、わざわざ添書までしてくれて、私を校長の代理ではなく私個人の資格と立場で参列できるようにはからってくれたことから想察されたのです。ともかく、校歌制定の濫觴はこんなことからでした。

一方また校歌の制定ということが、新設の学校にとって緊要なことであるのは、教育的にはもとより社会的にも慣例常識でもあるのか、またそれが文部省の示唆でもあったのかどうか、われわれが校歌制定を念慮に置いたころ、丁度機をひとしく厚生省関係の事業機関が、新設高専の校歌作成の斡旋という運動をもったことがあったらしく、私くわしくは知りませんが、わが校の具体例としては、そのころ沼津市内の某老人福祉施設の事務関係から、全国高専の校歌の作詞作曲のあっせんをしてその謝金を一部運営資金とするものだが、間接には国の福祉事業の援助一翼ともなるから、国立学校として沼津高専も応じないかという話があったとか、これは当時の水谷事務長から教官会議で発表されました。然し、作曲はともあれ作詞はほかに頼む気持ちはない、頼むべきではないというのが、井形校長の心中の信念としてあったのだと思われまふ。そんなことで私が校長室に呼ばれて正式に、そろそろ校歌を作詞してみないかと云われた時、もちろん私は即座にことわりました。

正直に云って今まで母校の小学校の校歌とか地方の青年団の団歌、或いはこれはまあ保育園ですがその母親学級の歌、それに前任校の応援歌、韭高音頭なんでものを依頼されたり自分から作ったりもして、作詞の経験が全然ないというのではないのですが、何しろ天下の国立高専の、それも創始期に絶対必要な懸案が、私ごとき小輩の手に負え柄に合う仕事では毛頭ありません。それに私の作歌の結社「とりふね社」では、すでに師匠折口信夫釈道空は亡くなってはいましたが、歌作を通じての同門先輩の薫陶は続いており、それも師匠存命中から作歌つまり歌を作ること、これをもって自身の人間鍛練を心がけ、晴れがましい発表や作物による安易な自己表示などということは修業の身にとって極度に戒律すべき気風と意識で育てられていたので、私にこの心情が加わっていたこともあります。私はこのことも辞退、拒絶の理由としてすべてあからさまに申し上げました。だが井形先生は言下に「だからこそ校歌のようなもの一ものこそ君が作ればいいんだ」と、さも平然と云われたのです。しかも問題はその後とて言葉です。すなわち、「わが校の校歌を君が作らなくて誰が作るのです。」――これはもう私に

とって絶対の至言だったのです。ここで言葉で言えばこんな言い方しか出来ませんが、何というか、俺をこんなに信用してくれている、俺は信頼されているんだ、と思いでた気持ち、私の生涯の感銘だったかも知れません。ともかく、私という人間を知っていてくれる。それが決しててらいてもお世辞でもなく、何というか、校長から部下教官への云い付けでしょう一命令でしょうが、それが命令ではなく、温情のあるおおらかな云い付け一依頼ではなくて信頼なんです。権威ではなくて恩愛だった、とでも言ったらいいのでしょうか。十年誌にもこんな風な表現でしか書けませんでした、端的に云ってみればまあ、沼津高専の校歌を作るのは俺でなければ、俺だからこそ、俺こそという自信と使命感とでもいったようなものが、油然而して沓沓として心に湧いたことでも言えるのでしょうか。ざっとまあこんなわけがあったというのが、本校校歌作詞の由来といったところであります。

くりかえして申しますが、私はけっして自賛するのではなくて、開校記念日に機を得たから、作詞の責任者として一と云いますか、作詞の経緯を責任上申し上げたわけでございます。ぜひおわかり願いたいと思います。

そろそろ予定時間になったようです。大へんまとまりのつかない身勝手な内容の話をしてしまいました。ともあれ、今年の開校記念日の行事として一期教官のひとりがその昔を語れという、その一期教官の責任をこれで果させていただきます。がまんして聞いていただきまして、ありがとうございました。

身辺このごろ

柳瀬晴海

毎年この7月になると、また東海地区体育大会が近づいたと思います。そして昨年と比べて今年はどうだろうかと、いつも話題になります。サッカーの場合は10回大会がありましたが、優勝3回、また全国大会も7回おこなわれ、全国3位2回という成績です。

いつか全国第1位をと望んでいます。

猶、ここでお願したいのは、サッカー一部の先輩諸君、現役選手を応援していただきたい。そこで、こちらからも情報をお知らせいたしたいので、一応OB名簿をつくりたいと思います。是非住所、勤務先等を連絡して下さい。更に現役を激励するアドバイス等も歓迎します。

さて、来年3月には10期生が卒業いたします。従って来年4月には1300名を越える同窓生が社会の第一線で活躍することになります。この10年以上を経た学校の周辺の

日々の変化は分かりませんが、10年前を思うと随分変化した事を感じます。国産電機横のドロ道はすっかりアスファルト化し、自然食（山芋）を掘った所は、静鉄の団地で、家も沢山建てられたし、又よく追いかけられた蜂もいなくなったし、さらに寮も拡張されて、多分数年前に卒業された諸君はびっくりすると思います。

しかし、四季を通じて富士山は美しく、そのままです。私も四年前に入院生活をして現在も1週に1回は通院して調整しています。

好きだったトリンケンも、程々で、むかしの元気は失くなってしまい、毎日グラウンドを学生と共に走った事もあったなあと思ひ出します。(よくサッカーの試合のとき学生諸君に可愛がっていただいたヨチヨチ歩きの私の坊主も、もう中学1年ですので、10年はたったなと思ひますね!!)

さらに感じております事は、社会人となって活躍している諸君には、現在の不況時代をむかえた日々の現実はきびしいものと思ひます。しかし若さのある諸君達は何もバツテはおらないと信じた。私も学校を卒業して軍隊、さらに敗戦、まったく青春時代は灰色の時だったが、やはり20歳代のあの頃が一番よかったし、楽しい思い出があります。

諸君、青春は熱であり、意気であり、かえりみるときの、ほ、えみを”忘れないでガンバツテ下さい。

ついおもしろくまゝに。

英語について

非常勤講師 木田和夫

私は昭和40年（第1期生が4年になった年）以来今日まで非常勤講師として、毎週2時間講義を担当してきました。はじめの5年間位は水力学をやっていましたが、その後は流体機械の講座を受持っています。いずれにしても、会社に勤務する一技術者が講義するので、話術そのほかいろいろの面でご迷惑をおかけしているのではないかと思います。今日まで大した問題もなくやってこられたのは幸いです。

私は毎年学生が新しく変わる度に言っていることがあります。それは「英語をよく勉強しなさい」ということです。もちろん私自身英語をよく知らないのですが、そんなことを言う資格はありませんが、英語はすでに国際語になっていますし、技術的な面でも、国外との交流が一年毎に盛んになっているからです。

英語そのものを母国語とする民族は全世界人口の30%

セント位ということですが、英語はそれ以外の多くの国で通用しています。国際間の会議や技術交流はほとんど英語を媒体としており、日本でもしばしば国際会議が開かれますが、公用語としてはほとんど英語が使われているようです。私自身も数年前、流体機械関係の国際会議でドイツへ行ったとき、会議が終ってからヨーロッパの数ヶ国を旅行しました。どこの国でもちょっとしたインテリは大抵英語が話せるようすし、また大きな店やホテルでも英語で用を足せます。イギリス以外の国で10軒位のホテルに泊りましたが、英語が通じなかったのは1軒だけでした。まず中級以上のホテルなら英語が通じると考えて差支えないようです。イギリス以外のヨーロッパ人にとっては英語は外国語ですから、彼等の英語は流暢ではなくゴツゴツしています。それが却って日本人には聞きとり易いように思ひます。フランスの電力研究所を見学したときは、30代の婦人技術者から（英語で）説明を受けました。このように英語はヨーロッパの技術者の日常にまで入りこんでいるのです。

ともあれ航空機や通信手段の目ざましい発達によって、英語の必要性は今後ますます増大することでしょうし、会社などの指導的立場にある人々は英語から逃れることはできなくなるだろうと思ひます。英語が必要になったとき慌てて勉強しても間に合うものではありませんし、それも30代、40代になってからでは頭が硬くなって容易に吸収できません。やはり若いうちに勉強するのが一番よいと思ひます。最近視聴覚教育やその装置が発達していますから、それらを利用するのがよいと思ひます。

生意気なことを書いたようですが、英語をあまり勉強しなかったことを後悔している者のくりごととして、お読みいただければ幸いです。

電業社機械製作所検査部長

先入観のうらとおもて

田嶋司

先入観という言葉は辞書で引いてみると、「あらかじめ作り上げられている固定的な観念であって、それが自由な思考を拘束する場合に言われる」と書いてある。あまり好ましくないことを表現するのに用いられるもののようなのである。

長年、設計業務に関係していると、どうもこの先入観とやらにしばしばお目にかかる。

特に設計のような実務面の強い技術畑では、それが発生し易い条件があるのだろうか。或る種のものを具体的に形造って行くためには、仮説、仮定、あるいは単純化

された前提を一応認め、これを基礎として積み上げをしなければ、目的とするものが完成されないという背景がしからしめるのだろうか、と考えてみたくなる。

最も初歩的な設計計算に、ボルトの強度計算がある。すなわち、最小断面積、荷重、そして算出した応力から判断し、決定するものである。もっとも、これはあくまでも、基本の考えであって、算出結果については様々な判断要素が加味され、また、更に多面的な解析のステップとなるものである。

ところが、一つの理論を初めて知った段階では、それをとても新鮮なものであり、最高のものであり、それがすべてであるかのように錯覚し易いものである。これが単に一時的な錯覚として終れば幸いであるが、往々にして先入観となってしまう場合がある。設計上の未熟、失敗は、殆んどこゝにあると云ってもよいのではないだろうか。

また、試みに身のまわりにある工業製品をみて、このボルトの強度計算を基本にして、使用されている部品を吟味してみると、将に多種多様な判断要素が想定されるだけでなく、そこで如何なる判断がなされたか想像し難いものが数多くあることに気付くであろう。

しかしながら、改めて設計する立場に立って考えるなら、一つの設計の基本思想を先入観としてでなくあくまでも基本の思想とし、多面的な判断要素を駆使し、広い分野の製品に対応し得るか自問するとなると、どんな解答がでるだろうか。

“そんなに難かしい問題ではない”と答える人がいるならば、少なからず或る種の先入観に溺れているとみるのは誤りであろうか。

人間の思考のこうした内面をのぞいてみると、意外に設計技術の質的評価の要素との関連が深いように思える。これは技術の分野に限らず、各分野にも、生活の中にも似たような問題があると思う。

小生も沼津高専第一期からはじまって、10年になる。卒業生も回を重ね、社会での実績が実り始めたこの頃では、新しい学制の一つとして誕生した高専卒業生の社会に於ける役割もその評価とともに振り返られるようになった。これは大事なことではあるが、社会に出て自分が高専卒業生であるという認識を失うまいと努めることは進歩とは全く無縁のものであり、年を経るとともに先入観となってしまうのであらうと感じている。

現住所 三島市光ヶ丘27-8

TEL 0559-87-3937

勤務先 コータキ株式会社

同窓の皆さんへ

工業化学科 村松宏司

来年3月には第10回卒業生が送り出されるようになり同窓会も役員理事その他関係者の努力により着々基礎固めができて来たようで誠に御慶に堪えません。

私もこの沼津高専に赴任して来てから丁度10年目になりました。工業化学科の第1回生が入学して来たとき赴任したわけです。この頃は、産業界は高度成長政策に添って膨張しつつあったときでもあり、学校も創立当時入学してきた学生が第1回卒業生として出る頃でした。いまや、多くの公害問題、資源問題などから高度成長は望むべくもなくなり、安定成長が大かたの識者から要望されるようになり、産業界も非常な困難に遭遇している様子、これは本年度の求人の様子からも伺い知ることができ、十年一昔の感を深く致します。

卒業生の諸君も何らかの形でこのような社会情勢の影響を受けていることではと思いますが、大部分の諸君はそれぞれの道で若さに溢れて精進していることと思ひます。どういう時代になっても、またどう学校を出ようとも（高専は大学との比較において色々な面でよく問題になることは皆さん自身経験していることと思ひます）。つまるところは自分自身の精進努力がものをいい、幸運もこの過程からおのずから生じて来るわけですから、専門分野はいうまでもなく、専門外のことも謙虚に着々と積上げて行かれることを切に望みます。

同窓会のことにつきましては今まで多くの方が書かれ、私も前の“同窓会だより”にも書いたりしたこともあり、さらにまた述べることもありません。皆さん、同窓会、母校を大切にしてください。皆さんの御健康御健闘を祈ります。

職員

同窓会誌に寄せて

学生課 高橋 實

O Bのみなさん。お元気ですか。みなさんが、全国各地で、あるいは海外で、それぞれ活躍している姿を思い浮かべて、限りない心強さを感じています。私は、昭和47年4月本校に赴任し、今年で4

年目です。学生課では、御存じのとおり、在学生と接する機会が非常に多いので楽しみです。800名の全学生の名前を覚えるということは至難のわざですが、1人でも多く覚えようと、あれこれ苦心しています。また私は、同窓会のお世話をする役目も仰せつかっていますので、OBのみなさんを知る上でも好都合で、歴代同窓会長初め理事の方々には、よくお目に掛かることができます。この方々は、度々会合をもって、同窓会の発展のために努力しています。そのお陰で、同窓会総会は、回を重ねる毎に盛会となり、規約も整備されて、全国組織に加え、各県の支部組織の充実にも大いに力を注ぐことになっていますので、今後ますます拡大強化されると思いますが、沼津が丘に若き青春時代を共に過した縁を、生涯保ち続け、かつ発展させようとする、よき輪の広がりを、私は素晴らしく尊いものに思います。

今、沼津高専は、前期中間試験を見事乗り切り、東海地区夏季体育大会に備えて、猛練習をしている選手の姿で、活気に満ち満ちています。屋上では、応援団の応援練習が熱心に行なわれ、一層選手達を鼓舞しています。

この体育大会の種目は、陸上競技・軟式庭球・バレーボール・バスケットボール・野球・卓球・柔道・剣道・ハンドボール・サッカー・水泳の11種目で、豊田・岐阜・鈴鹿・鳥羽の4高専の選手諸君と覇を競うのです。本年度は岐阜高専が主管で、7月12日(土)、13日(日)に岐阜市を中心に行なわれます。これに勝ち抜いて、全国大会への出場を目指すのですが、全国大会の種目は、陸上・軟式バレー・バスケット・卓球・柔道・剣道の7種目については、8月20日から22日まで3日間、明石高専が主管で、神戸市・明石市を中心に行なわれます。野球は、別個に明石高専で8月20日から、サッカーは岐阜高専で8月下旬に、ハンドボールは豊田高専で8月28、29日に、それぞれ行なわれることになっています。各種目の選手諸君は、地区での勝利と全国大会出場を目指して、涙ぐましい猛練習をしていますので、OBのみなさんの絶大な御声援をお願いいたします。

また、東海地区秋季体育大会は、10月10日の体育の日を中心に、ラグビー・体操・硬式庭球の3種目について、夏季大会同様岐阜で行なわれます。

以上体育大会について、概略を御紹介しましたが、他の体育クラブや文化クラブも、それぞれ頑張っています。

卒業生や大学への編入学生の人員及び求人倍率において、全国高専のトップクラスにある我が沼津高専は、OBが管々として築き上げてきたこの輝かしい実績を汚すことなく、更に研鑽を積むべきものと思います。

また、同窓会の発展の要件の一は、会員名簿の整備にあると思います。これについては、理事だけが如何に頑

張ってみたところでなかなかうまくいかないのですから、会員の積極的な協力を是非お願いします。勤務先や住所が変更になったら、すぐ本校内同窓会事務局へお知らせください。

梅雨期なのに、日中雨が降らなかったので、屋外種目の練習も能率が上がっていましたが、ここ2、3日はまとめて雨が降っています。体調に苦心を要するところです。私も負けずに、軟庭のラケットを握って、コート上に、白球を追っています。

ではOBのみなさん。元気で頑張ってください。

(50.7.5記)

雑 感

小長谷 治 正

私は昭和37年4月10日に沼津高専職員となって、今13年目の夏をむかえようとしている。振りかえってみるとこれといって記憶に残った日々はない。平穏であったといえは聞こえはいいが惰性で過ぎ去って来たのではなからうか。

恐ろしいことで、ひと昔の歳月が過ぎ去ったというのに私の人間性はチョットも成長していない。しかし人並に年をとり、結婚もして二児の父親になってしまった。幸福か不幸か自身で判断する事はむずかしいが、なぜか私は今の自分に満足しようとしている。たしかに過去を振りかえっても1つとして誇れるものはない。そして現在に至り弱輩で未熟者だ。こんなのらくら人生を送って来た者に因果応報的にみて現在の状態が良いわけではないが、私は余生に対しては人並の希望を持ちたいと思っている。過ぎた日々がのらくらだっただけにその反動に期待している次第である。

会 員

寸 評 子 (2)

M1 島 村 俊

前回、順をおって私の知っている限りのM1動向を書いたが、やはり皆からのたより、又は電話による生の話を載せる必要があると感じたので、今回はやめ、全般の動向を中心に書きたいと思う。なお皆の生の声を同窓

会あて、又は直接私の自宅へTELして欲しい。

TEL 0559-22-7791

沼津では今年になって、奥田、木ノ内、佐々木、平野(一)とたてつづけに結婚し、ついに独身は私と跡部、佐藤、杉山(一)、白岩、平田の6人になってしまった。寂しい限りである。

最近のテレビ局はよほど写すものが無いのか、平野(一)がヨットで写ったり、木ノ内が東芝ワングル部で写ったりした。まだ写ってゼニの取れる役者が出ないのが残念。今回名簿の不明な所を直すため、旧在校生名簿より実家をあたり、各所に問い合わせ小木以外は全部わかり、一応連絡先をつかんだ。なかなか大変なもので、一日2名がやると、おかげで電話料も万の単位を払わされてしまった。でも生の声で聞くと昔と変わらない様子が手にとる様に解かる。変わった点を言えば、いずれも子供には手をやいている様で、当方とはそこだけ違和感を思わせる。

伊達、跡部と3人で同窓会をむりやりやらせられ、その負担の大きさに現在ヒメイをあげている。何しろ、週に2日をとり、通信料はすべて自腹を切り、たまには良くやる理事に食事を出したいが、一回も出せずにいるし、精神的に3人もまいっている。

でも田原はさらにえらいと思う。ついに愛知県支部を作り上げ、理事を決め、発足させてしまった。又、浜松でも支部に近い事をやり、毎年一度会を開き、旧恩師を交替に招待して、交流を深めている。

山本貢が9月より、約5年間、米国シカゴへ転勤するそう。そう言えば、海外に足跡を印した者も数多く出て、わが沼津高専の田舎っぺもいよいよ国際的になって来たものだ。ただ心配なのは、各地のよせ集めのいわゆる「沼津高専言葉」しか話せない。すなわち日本語を正確に皆話せないのに、大丈夫かなと思う。

社長もついに数人出て来た。同窓会と相互協力を行ない、おたがいさらに伸びていきたいと思う。

死んだ杉山(雅)の7回忌に行けなかった。本当におしい仲間を失った。13回忌には出席したいと思う。いっしょに冥福を祈りたい。

前回の白井の文章が、我々の気持を代弁しているが、反響がかなり有り、会誌発行の意義が有ったと思う。再度目を通してほしい。

M1も職を変った者が多い。それも超一流とおぼしき会社からの転職が多いが目につく。卒業する時ひそかに「このメンバーでは、3分の1は会社の1歯車から脱皮しなければ、あきたらないだろう」と思っていたが、以外に早くその兆候が表われて来たみたいだ。

卒業してからまだ一回も母校へ行っていない人へ……

学校の設備は大きく変わりましたが、我々が金岡中学からいっしょにすごした先生の多くは現在も母校ではり切った後輩を育てています。ぜひ顔を出してやって下さい。

最後に、ぜひ皆の手紙なり電話をお願いします。又、小木の住所だけあちこち問い合わせしていますがわかりません。せつかくここまで調べ、1名だけわからないのは残念です。

誰か連絡下さい。

(文中敬称略)

マイペース

M1 長谷川 浩 之

学窓を出て早や10余年が過ぎようとしている。余りにもこの世の中が早く展開して行く様な気がしてならない今日この頃である。卒業してヤマハ発動機に入社し、約7年10ヵ月を過ごし、独自に仕事を始める決心をして(株)H.K.Sという会社を設立する。

我々技術関係を歩んできた者にとって会社設立・工場設置・資金計画・人員計画・仕事の確保とかいった種々の点を全て一人で対処して行かなければならず、大変な事であった。会社に勤務していても技術の事ばかり知っていてもやはりダメだ。トップマネジメントを行なう事が、いかに大変であるかを知り、又役所等の事務手続上に不備があろうとも、やはりそんな時には係員との人間対話によってその件を上手に対処する事を大いに知った。地球上は、皆人間関係が大きな礎となっているのだなあ……

永い間の会社勤務を終えて独自に仕事を始めようとしたが、これが又、工場建築中に石油ショックという大きな事態に合う事になった。しかし途中でストップする考えは全くなかった。資材の高い事、全く困った。一応工場は完成したが、今度は内部の設備を整えなければ、実験・開発の業務が進まないの、自分達で道具・実験設備等の製作である。何事も自分達で行なうのであり、これには学校時代の卒業研究の時と同じ様であった。やはり自分でやる事の重要性が解かった。

(株)H.K.Sとはいったい何をやろうという会社かという、レーシングエンジンの設計・開発・製作を主目的に設立したのである。社会の状況の中で排ガス等の言われている時に、なぜこの様な事をするのか、時代に逆行しているかも知れない。考えて見るに大メーカーがレーシングエンジンを巨大な設備と巨大な資金で作る時代は、終えた。これからは、一歩下の小メーカーで十分であり、特にレースの世界は小回りがきかなければ、勝つ事は無

理である。伝票がある、無いなどといっている大メーカーでは、混乱を起こすのみである。設立年度は売り上げも少なく苦しかった。しかし半年間位日夜頑張っていくと、商品のメドも一応ついた。この自信は大きい。

これが、HKSターボチャージャーである。とにかくよく走る。お客様が驚いて行く。日本ではHKSだけが製造している。ノーハウのかたまりみたいなのであり、真似をしてもすぐ失敗をするだろう。一応はメシの種を作ったので、今度は忙しいばかりである。人材の育成、販売系路等、又仕事が増えてしまった。しかし、自分の会社の力に応じて一步一步拡大して行く計画である。

内燃機関でもガソリン機関に興味のある者は必ず、レーシングエンジンの事を研究して行かなければならないだろう。これはなぜかという、独創的なアイデアと、短期間に開発を終了するという姿勢が大きく作用して行く気がする。排気対策のエンジンは特にマサツ損失を低下させて、車重を軽くして、排気ガスの発生する重量を少なくする必要があり、レース車の技術が大いに活用されるのである。ホンダのCVCCにしても開発の推進を主体的に行なったのは、旧レーシング部門にいた人達と聞き、うなづけた。ホンダと言うと自分はホンダの生いたち、発展、苦難時代、世界のホンダへの経過に非常に興味を持っている。種々の本で知る所では、やはり本田自身との人間関係からこの会社がスタートをしていると知り、やはり会社というものは人間関係がまずスタートである。学校でも、教師と学生、会社でも会社と労働組合との関係が非常に大切であると思える。相手の立場を理解する心の余裕が欲しいものである。

同窓の人達は皆それぞれの人生を歩んでいる様子であるが、自分は自分のペースで将来へ向かって行く積りであり、友人の結婚も全く他岸の火事の如くである。

学校との関係は僕にとっては非常に意味のある事で、やはり専門分野の不足している点は、安心して相談の出来る点にあるようだ。将来は学校にも会社で役に立つ事を計画したいものである。同窓の人達よ！大いに頑張って自分の人生を見い出そうや！又近況を書くや！

(株)HKS代表取締役

〒418-02 富士市上井出字小芝2266

TEL 05442-2-0484



近況報告 TRY, TRY, TRY !?

M1 小池 龍三

持って生まれた、先の読めない、向う見ずな性格で、在学中も卒業後の9年間も、やってみて痛い目に会って先人の言うことを確かめる。良く言えば実行派、本当の所は、わがままと、「まよ」のバクチ打ち的思考で現在に至る。

印刷を媒体とした広告、つまり印刷物の企画、デザインから印刷までを一括して受け請う事務所を開いてから、約2年になる。幸いな事に、石油ショックの到来と共に開設し不況、不況の環境の中で、これまでやって来ることができた。

ふり返ると(ふり返る程の期間でもないが)まず思いつくのは環境への感謝である。ヨチヨチ歩きの子供を長い目で見てくれた人々への気持ちは、「ありがと」だけですすつもりは毛頭ないが、それでは、と考える程余裕を持った時期でもない。ただ「明日の風」の吹き方が必ずしも天の神様が決めているだけのものではないと思う様になったのは、はずかしながら、最近の事である。

そしてもう一つ言える事は、これは私個人だけのことであるかも知れないが、勤めていた時に比べ、全ての事象が、3倍位に凝縮されて、やって来るという事である。逆を言えばそれだけ甘い感覚しかサラリーマン時代には持っていなかったということかも知れない。ともあれ、色々な面で周囲の協力のもとに好きな事を勉強させてもらっている毎日であり、当分は文字通り、TRY!!の一語でどん欲に生きるつもりである。

最後に紙面を借りて、同窓生諸氏に呼びかけを行いたい事がある。もし今、皆さんの中に、こんなアイデアを実現したい、又は、こんな話があるといった様な情報をお持ちの方がいたら遊びも含めてどんなくだらない事でも結構です。是非下記まで御連絡いただきたい。大いに意見交換をし、又何らかの形でそれを一歩進める事は可能であると思うし、又そういった情報を集めて卒業生間に行きわたる討論の場と、情報交換の場を提供できるユニークな刊行物の発行も可能であると思う。

何よりも今後、多くの人の考えていることを知ると言う事。具体的には、そういうルートを持つと言う事は、全てにおいて非常に重要なポイントになって来ているのではないのでしょうか？

宛先 〒410 沼津市平町20-12 山王マンション4F

ジャパンコミュニケーション Tel0559-51-7555

近況報告

M4 沢崎 春樹

組員1万5千名余り、造船重機労連三井造船労働組合中央執行委員という肩書が現在の私の職務であります。生来筆不精の私に投稿依頼が舞い込んでいざさか面喰っておりますが、せっかくの御依頼でもあり、なつかしさ一途で現在までの経緯・近況等を御報告させていただきます。御勘弁承りたいと思います。

沼津ヶ丘の学窓を離れ早5年が過ぎ、機械屋として就職したはずなのにどう人生が狂ったのかと申しますと、今考えてみるに、どうやら船の心臓を作るんだと張りきって三井造船の門をたたいたのがそもそも人生軌道の歪を生じさせた始まりのようであります。

当時は、機械屋でありながら、土木屋の先手(見習い)から電気溶接工の段取り屋、等を振り出しに、徹底的に土木計器使用法、電気溶接法、原寸展開法をたたくこまれ、橋梁、各種クレーンの工場工作担当部門に配属されました。与えられたものは、各種クレーンのドンガラ(鉄構造物部分)製作専門であり技術提携によりDIN、ASME規格に終始泣かされる毎日でありました。そのうちどう心境の変化を生じさせたのかゲートの設計部門に投げこまれました。やっとな腰をすえて機械屋の本領が発揮できるわいと、水門設計入門に意気燃えていました。ところがこれまた早合点、次は落ちるに落ち、現地施工見習いということで乗鞍岳山頂天文台工事から四国今切川河口ゲート工事と渡り歩き、なんて人使いの荒い人を何と知っているのかと思いきや、次の落ちつき先はなんと執行委員に押し上げられ2年半、現在に至っております。

ここで若干、私なりに現在の仕事について述べさせていただきます。まだ新米の執行委員の頃は、同期生の専門分野での活躍を見聞きするにつけ、なにか自分だけが時代から残されているようで非常にさみしい思いをいたしました。しかしその反面ファイトがわいてきて人生何事も勉強、オレは大衆運動の中で、人の心の管理を学びとってやると燃え、労働者生活向上の為努力してまいりました。反面企業内労働組合運動の使命でもある日共系の組員との対決もさけられない問題として、常に民主的労働組合運動を推進するためがんばっております。御承知の通り企業内労働組合運動は、資本主義を否定してしまっただけでは運動の展開は成立せず、企業という土俵の上に立ちスモウを取って初めてなり立つものであります。それを取って階級斗争至上主義者あたりが自分

達の政治斗争の足がかりにしようと拍車をかけているのが現状であります。

そういった意味において正しい組合運動の前進の為また経営サイドのエゴにより労働者の生活条件が踏みにじられることのないようがんばらなければならないと思っております。

“人間死ぬ時、人生振りかえりよかったなあ”と思えばよいと心に念じ、日夜はりきっております。どうか三井造船の声を聞いたなら変わった同窓生がいることを想い浮べてくださるようお願い申し上げます、このへんで終了させていただきます。

〒182 東京都調布市西ツツジヶ丘1-17-1
三井造船西ツツジヶ丘荘

近況報告

M4 秋葉 高志

理事の風間から、仕事を中心にした近況報告をとの依頼であったが、あいにく現在無職に近い状態なので、卒業後の経過を大雑把に書くことにしよう。

昭和45年春4期に卒業、森永乳業に入社。会社は保守性を基調に、革新的な事柄は他の指導的産業界に追従するという位置にあった。ここには1年3ヶ月の短期間しか勤めなかったため、あまり確信をもって言えないが、同期あるいは先輩の高専出身者の状況を見ると、主に工場における機械の保守・修理・据付・配管等将来は工場の装置機械類を全面的に面倒の見れる人員の養成を狙っているようであった。私はこの仕事自体には特に強い不満はなかったが、もっと根本的な給与体系、人事、組合組織と言った面に深い不満を感じていたため、遂に翌46年6月で退職した。年功序列、終身雇用制に対し信条的に我慢できなかった。

これを機会に、外国を一度見てみたいと常々考えていたのを実行することにした。退職後すぐの7月、貯金をはたいてシベリア鉄道の切符を買いヨーロッパに発った。50年1月に帰国するまで3年半を過ごすことになる。初年度末までヒッチハイクや鉄道での観光旅行、その間2ヶ月のロンドンの英語学校生活体験、ノルウェーを除く西ヨーロッパ大陸歩き廻った。

翌47年からはコペンハーゲンに腰を落付け、市民レベルの生活を試してみることにした。当初は不慣れの地であったので、宿泊所と仕事の確保で手一杯だったが、半年一年を経るうちに、一般的な生活リズムに乗ってきた。日本人、デンマーク人、中国人達の良き友人に恵まれ、種々考えることがあった。

夕刻中レストランで下働きして、午前中博物館、美術

館、骨董品屋巡り、午後の大学講座、週末の学生コンパ等、美しく整備された街並みと何とはなしに余裕たっぷりの人々の雰囲気とも相まって、深い落ち着きと充実感に満ちた日々であった。古い友人と読みたい本が身近にないという不満がいつもあったが、他の快適さに比べれば耐えられるものであった。いつしか3年が経って、20代も半分終わってしまった。家庭の事情と、将来の進路をそろそろ決めるべき時との自覚から、洪々一応帰国した。

東京が高層ビルとバラックが無秩序に密集した、後進国の都市の最近の特徴を大規模に持った所だということ、田舎は封建的な老人と下品で軽薄な若者が不調和に同居している所に感ずるのは、私の頭がどうにかなってしまったせいだろうか。

デンマークの友人達がやっている骨董品の複製を東京で輸入販売すべく現在色々下準備をしている。7月8月頃からようやく出発できそうである。いくらか利益を上げたら、次回の海外行脚、アメリカ編のプランの作成に取りかかろうと思っている。同行者只今受付中デス!

〒250-01 神奈川県南足柄市中沼301

保険セールスの道へ!!

M5 富田直治

「保険のセールスマンなんか何故なったんだ?」、これが同期生に会った時に云われる最初の言葉だった。

私が日本生命の門をくぐったのがS49.3.7。職員補として、保険セールスの道を歩み始めてから現在に至るまでの経過及び近況報告をここに記述しよう。

最初の一年間は苦難の連続だった。S49.2.15に結婚し楽しいはずの新婚生活は他人の目だけで、毎日神経を使う仕事に家庭サービスは留守がちになり、収入は妻の方が多く、又妻が働いてくれなければ生活していけない状態が半年以上も続いた。その頃、保険セールスマンが誰でも経験する壁にぶつかり、毎日が空虚なものになる。自然、成績も不振になった。

そして「沼津高専卒」の学歴は想像以上に重くのしかかり「何故、保険のセールスをやっていたらならないのか?」と自己嫌悪に落ち入る毎日だった。

こんな状態を脱する唯一の方法が「バカになる!!」ことだった。保険の道へ入ったからには早く出世し、収入面及び経済社会面で、充実したものを身につけたかった。保険会社ならそれが可能だし、事実それをやっている人間はいくらでもいたからだ。

この様な考えを持ち始めて「道が開けた」と思った。それからは綿密な収入計画、出世計画をたて、目標は大きく持った。そして着実にステップbyステップで階段を昇り始めたのがS50.1、六ヶ月後の現在(七月)には所長というスピード出世を成し遂げたのだ。これは日本生命広しと云えど全国で2人目だった。

現在では収入も手取り20万は下らず、昨年(S49.3~S49.12)の収入「95万5,000円」は嘘の様であり、今年は年収350万は固く(手取額)総収入では400万~450万に達する見込大である。

そして夫婦生活も円満で6月12日には「長女」もさきかり一家三人毎日楽しく過ごしている。この様に、仕事(保険セールス)を続けていて良かったという気持ちが、ペンを走らせていてもわき出てくる。尚3年後の支部長選考パスを目指し、子供の為にも必ず成し遂げ幸福な家庭を築きたい。

それでは保険会社の内容を紹介しよう。

衆知の如く実力の世界であり、ルートセールスと違いやらなければ喰っていけない世界である。実績がものを云う為、数字との勝負はやめない限りつきまとう。休みはあってない様なもので他人が休んでいても働いている次第だ。全て自分との闘いである。

こんな半面、前述した様に、年が若くても、又入社年数が浅くても実績次第で昇格するし、収入も大幅アップとなる。しかし給与面だけを見てみれば、今年4月の昇給は「固定給」で330円しかなく前年より収入が少ない例は充分あり得る事で自己管理をおこたれば一日天下になってしまうのも事実である。

最後に私が保険セールスの道へ入り学んだ事は「忍耐」であり、又「やれば必ず出来る」という言葉である。この先、まだまだ苦難の道を歩み続けると思うが、この言葉を信じ金字塔を打ち立てたい。

〒411 駿東郡清水町徳倉66

TEL0559-32-5371

近況報告

M7 後藤充孝

卒業して2年と数ヶ月経つ現在、およそ工業とは縁の遠い分野で仕事をしている私です。富士市にある材木屋で、かなり大きい規模をもって動いていますが、昔からの材木屋とは多少違った形態で始められ、それが成功して今ではかなりの経営実績をあげている会社です。私が入社する以前の事ですが、大量消費時代の真っ盛りで、

また建築ブームの波に乗って、大量仕入れ、大量販売、つまり薄利多売を実行してぐんぐん成長して来ました。今年になってから不景気の感がいよいよ出て来ましたが、その分他の材木屋に勝ち抜く事によって、力強く伸びつづけています。

2年間内勤の後、今は神奈川県地区担当の営業(セールス)にたずさわっています。距離が遠いという事で、いろいろと難しい問題がありますが、個々の工務店・建設会社の工事が減っている現在、商圏を拡張する事が最も適当であるという会社の方針で、反対もありましたが、最終的には神奈川県地区の新規開拓という事に決定したわけです。

私の場合、遠隔地というハンデがあるために、商品の売り込みにかなり不利な点があります。まして向こうには同業者も数多くあるわけで、その反発にも困っている現状です。有利な点もあります。「マルダグ」という知名度と単価です。今までに築き上げられたこの二つの武器を利用して、客に挑むわけですが、特に私の場合遠いという事で、少々単価の違いでは客は心を動かさないので。いかにして、客の心を動かして自分のものにするか、その演出をするのがセールスの仕事だと思っています。悪く言えば、商売というのは、客をだます事です。全国どこへ行っても、この流通機構です。同じ物が出まわっているのです。その同じ物をわざわざ遠くから、買うという事は、少々単価が安くとも、なかなかしないのです。まして今までのつき合いもある。だからセールスマンが必要になって来ます。そして、まずセールス自身が自分をだます事が出来なければ仕事は務まりません。つまり、自分の会社・自分の売り込む商品は、他と比べて全てにおいて優れていると思わねばなりません。無意識のうちに身につけば、これが自信となるのです。迫力が違います。自信がなくては、売れるものも売れません。だから今は自分との戦いです。始めてすぐ、精神的にも行き詰まった事がありますが、自分に勝つ事で仕事を成功させる事が出来ると信じています。

終りに、学校というところが単に知識の蓄積とか、専門知識の学習だけの場だとすると、これ程恐ろしい社会はないわけで、もっと、考えつく事全てを片っ端からやっつけていけるような雰囲気のところであってはいけなないと、私は思います。型にはまらない教育という事に対して、教師においても学生においても、より積極的になれたら素晴らしいと思うんですが……。

〒419-02 富士市入山瀬529-1



近況報告

M9 佐藤芳邦

卒業してから3ヶ月が過ぎました。東京での新しい生活にもすっかり慣れた感じです。でも思うのですが、こちらの生活に慣れるということは実際恐ろしいことです。沼津の大岡の地が大変なつかしく思われます。今頃学園は高専大会を前にして活気に満ちている頃かと思えます。

普通の人達と違った道を選んだわけですが、生きていく上で何も変わりはないつもりです。今は、英語を身につけるため、通訳のガイド養成所という学校に通っています。授業のほとんどが英語のため、最初はわからなくてこまったのですが、今では8割位は理解できるようになったつもりです。何をやるにしてもスランプという状態はついてまわるような気がします。授業の内容も高専時代とはまるで異なるのですが、何か現象としてとらえたとき、すべて学問に共通するものがあるのではないかと思うようになりました。

新しい生活を目指しつつ札幌へ出かけた小沢仁君から3度目の便りが届きました。今大通り公園を中心に街はライラックのかおりではなやんでいるとのこと。元気にたくましく彼の夢を追っている感じです。

とにかく僕たちはこれからです。いつも夢を頭に強く描いて、その方向に努力するつもりです。

〒177 東京都練馬区石神井台2-8-3 若尾荘

近況報告

M9 有泉政彦

一人の技術者として学校を卒業してゆくはずだったのですが、学校の方針に反して、別の道に進んでいます。

生物の勉強がしたくて、技術者をあきらめました。動機は「自然を知りたい」それだけの事です。しかしまだ目標に続く道さえもわからないのが現状です。

都の生活は慣れないため毎日たいへんです。特に高専時代、勉強をするクセをつけなかったのは失敗でした。今、遊びという誘惑をたちきるのに手をやいています。酒、女、ギャンブルとは一切縁をきり、とまではいかないまでも、かなりセーブして毎日勉強に明け暮れています。ただ救いは自分の夢を実現させようと自分がほんとうに思っていることです。

これからもそういう生活をしていきたいと思っています。 〒177 東京都練馬区石神井台2-8-3 若尾荘

テニスと私

M9 高橋 敬治

書けと言われて何を書こうかと考えてきたのですが、一向に頭に浮かびません。比較的物事に無関心な私ですので、よけい刺激が無いと何も考えないようです。いたしかたないので思いつくまま書かせていただきます。

私はテニスが好きでよくコートにでてはやっています。プレイした後の爽快さと、緊張感と、ボールの金属音と、外の空気に接すること etc. のような一言で言い表せないものを感じます。テニスでは予測がたいせつだと言われます。相手が右か左かどちらへボールを打つか50%の割合であてなければなりません。物理的には、相手の目の位置、ボールのからだからの距離、または、その人のくせなどいろいろあるでしょうが、これもストロークでは肩をネットに向けるだけでも予測がしにくくなってしまいます。また、試合になると練習のときの実力の半分もでない人が大部分です。これはもちろん精神面の動揺のためです。私も何度も経験したのですが、試合になると自分ではしっかりボールを見つめているつもりが実際にはぜんぜんみていないのです。

スポーツはからだで覚えると言われます。この前、何も練習していなくて試合をやったのですが、足がかってに動いたような感じを覚えました。頭の方はポケットとしていたのですが自然にからだ動くので私自身おどろいてしまいました。

私の目標としては、テニスをやることによって技術的にうまくなることはもちろんですが、精神面を少しでもしっかりしたものにするように一生やっていきたいと思っています。 〒 410 沼津市大岡3871 宮本譲方

近況報告

M9 篠ヶ瀬 茂

今年の三月、晴れて学校を卒業しまして、四月より社会人一年生として社会に巣立ちました。私は次男ですので、どこの会社に就職してもいいのですが、どういわけか清水にある小糸製作所に就職しました。小糸製作所は知ってのとおり自動車照明器具類を主に製造している会社です。入社して二週間ばかり新入社員教育がありました。学校の延長のようなもので眠い眠い毎日でした。その後現場実習を行なっています。

実習の初め三ヶ月余りが二交替で、プラスチック

成形工場・S B 製造工場・プレス工場と三部門の工場を回っています。プラスチック成形工場は主にテールランプのレンズ・ボディ・リム(レンズのわく)を製造しています。S B 製造はシールドビームといって自動車の前照燈を製造しています。プレスは前照燈の反射鏡やボディ・その他ランプ類の部品を主に製造しています。

どの工場に回っても感じることは、まず安全第一であるということです。どの機械にも学校では教わらなかったような安全装置がついています。たとえばプレスでは、手引安全装置(スイッチを押して、上型の中に手が残っていると、手が後ろに引っぱられる装置)や、投光式装置等が使われています。

現在、静岡にある寮から通っているのですが、生活が単調でしかも実習はあまり頭も使わず、アルバイト的な要素が強いので、あまりおもしろい毎日ではありません。まだ配属先が決まっていないので、なんとなく将来が不安になる時があります。しかし、ほぼ週休二日で、それだけが楽しみで毎日を過ごしているような感じですよ。

寮生活は、静岡の寮は高専・大学出だけしかおらず、高専出は一年先輩の大阪高専出身の人と私だけで、あとはみな大学出の人ばかりですけど、合計三十人くらいで、家族的雰囲気強く暮しやすいです。1人1室で狭いながらも、自分の城を持っているという感じですよ。

まだ、社会人になってから三ヶ月余りで、学生気分から抜け出せないでいる自分ですが、無理をせず、背伸びをせず、いつまでも若い気持を捨てないで、一步一步、歩いていきたいと思っています。せっかく人間に生まれてきたのですから、好きなことをやって生きていかなくては損ですし、後で必ず悔やむと思います。できるだけんびりと好きなことをやって生きていこうと思っています。

〒 420 静岡市千代田180-2-7 小糸千代田寮

自衛隊の技術屋

E1 草分 孝太郎

日本の大会社の十指に名を連ねる自衛隊、またの名を防衛庁、この方がなんとなく聞こえがいい。と言うのは、自衛隊といえば「仕事をなくした人間を集めて戦争ごっこをしているところ」と新聞の三面記事のような存在にみえ、また防衛庁といえばいづらかランクがあがって、「安保がどうのこうの、あるいは日米防衛分担はこのようにすべきだ」と、今度は新聞の第一面にのしあがる。

まあ、どちらをとっても現在の日本においては少々けむたがれており、“世の期待に応えない”ものの代表みたいな存在となっているような状況である。考えつめる

と何となく故井形校長の教えに逆らっているような気がしてならない。

こんな自衛隊にあこがれて?入社して、早8年、過去横須賀、呉とまわって、今では本州の最北端、青森県は大湊、その恐山の麓で冬はスキー、夏は避暑と非常に快適な生活をおくっています。

今では、技術士官になって3年たち、仕事の面では数少ないソーナー屋の中に名を連ね、水中における音波伝播がどうのこうのといろいろ頭をひねっている昨今である。

私が担当している機器の中にソーナーというものがあるが、このソーナーというものは装置が大きくて少々やっかいものだがレーダーと非常によく似ている。つまり、レーダーは電波の放射により目標を探知するものであるが、ソーナーは水中に音波を放射して目標を探知するものである。大きく違うのは、ソーナーの相手が未知の海ということと、それが電気音響変換素子を持っていることである。その他の、例えば、放射出力や伝播損失が何dB(デシベル)あるというようなところは両者共ほぼ同じである。また、ソーナー以外の機器では水中攻撃指揮装置やジャイロ等の航海機器がある。こちらでも頭を悩ますのは前と同じで「シンクロの指示角度が何度かの時、レゾルバのコサイン出力は何V出るか」と、やはり頭をひねる。

まあ、これだけ専門用語を並べたてれば、電気工学科の教授連も「ウーム、あの草分がこれだけの仕事をしているとは」と考えつつうなずいてくれるに違いない。

少々脱線したが、これも自衛隊にもこのような技術分野の仕事がいくらかもあるということを知ってほしいからである。

現在、我が社の武器はエレクトロニクスの先端(最先端ではない)を駆使しており、従業員多数、倒産の恐れ皆無、そして将来性優望といことづくめである。

入社希望の方は是非私に住所氏名を知らせていただきたい。その際は、直ちに募集担当官を伺がわせます。

それでは、また会う日まで。

〒039-51 青森県むつ市川守町2-51 322号



変った職業

E2 小原 雅春

現在、私は、ブックローン(株)の水戸営業所で、約40名セールスマンを管理する営業所長として汗を流しております。

ブックローンという会社は、今TVコマercialで高島忠夫さんが、グランド・ナポレオンやミル・メニュー等を紹介しており、幼児から社会人までの教育書籍を販売する会社であります。一期、二期卒業生のなかには、愛する子供さんのために、チャイクロやカラー図鑑等を既に御利用いただいている方もおられることと思ひます。

ところで、数学、物理等、技術者として必要な才能に欠ける私は、三菱電機入社後、半年程してから180度方向転換してセールスの世界へ飛び込みました。数学や物理の場合には、いくら努力しても最終的に答は一つであり、万一間違ってしまえば、その間の努力は零に等しいわけですがセールスの世界ではその努力に比例して答は必ず大なり小なり出てくるところに活路を見出しました。

幸い上司の方が、当時、ブックローンセールスマンの全国一の優れた人で、その方のスパルタ教育のおかげで、入社後半年程してから、ぼちぼち全国ランキングの上位にも食い込むことができるようになりました。また、年に2~3回セールスマンの意欲を高めるために大きなコンテストを行ないますが、そのコンテストの一つに全国セールスマン中、上位三名までにカラーテレビ贈呈というのがありました。この時は、朝から夜遅くまで、死んだつもりになって百科事典を売りまくりました。その努力のかいあってか何とか第三位に食い込みカラーテレビを手にした時は、セールスマン冥利に尽き、この世界の醍醐味を思う存分味わいました。また、収入の方も月収五十万円位あったと思ひます。

その後、横浜で一年、水戸で四年程、所長業をしております。四十名程のセールスマンをいかに売上げを伸ばし高収入を取らせるかが、私の今の仕事です。

しかし、年齢も二十歳台~四十八歳まで、また、価値感も皆、それぞれ違いますから、おいそれとは私の思っている方向には、なかなか進みません。一生懸命、目標に向って脳目もふらず努力する人もいれば、逆にマージャン等、遊びにエネルギーを費やす人もいるわけです。四十名のセールスマン全員が真剣に仕事に打ち込むシステムをいかに作り上げるかということに知恵をしばってありますが、何分にも人間の心ばかりは、数式のように

簡単に計算では割り出し得ませんので苦勞しております。

現在、ブックローンは、毎年毎年、業績は大きく伸びており、経営方針も年功や学歴より完全な能力主義でありますので、力のある管理者は、どんどん販売網を拡大することができます。ですから、ちょうど、戦国時代の武将のように、勢力拡大に心血を注いでも余りある魅力ある仕事であります。今は、北関東の茨城県の一角の販売網を管理するのみですが、近い将来は、二倍にも三倍にも勢力を拡大して、ブックローンの大いなる発展に寄与すべく、今後とも邁進してゆくつもりであります。

以上、現在の仕事について述べましたが、皆様方の御健康と御活躍を心よりお祈りいたします。

〒 311-31 茨城県東茨城郡茨城町大字古布田639-14

近況報告

C1 杉本敏博

私は現在、静岡県警察に勤務しております。

高専在学中に警視庁の採用試験を受験したが、卒業後不採用の通知があり、その年の1年間は、静岡県警察に就職するつもりで、アルバイトをしながら勉強して居ました。翌年の昭和四十七年の四月に静岡県警察官を拝命し、警察学校で1年間の教育を受け、48年の3月に卒業して、静岡中央警察署に配属され、静岡市内の繁華街を受け持つ青葉交番に勤務しました。約2年間、交番勤務をし、今年の2月の異動により、現在、静岡県警察本部刑事部刑事総務課に配属されております。

警察学校の厳しい訓練も、高専時代に剣道部に籍を置き、体力にも自身があり、なんとか耐えることができました。2年間の交番勤務も、私の人生にとって、多くの経験をすることが出来、有意義でした。

高専在学中に、しっかりとした正義感や使命感があったわけでもない私が警察官になったわけですが、高専を卒業して警察官になっているのは警察では異色な存在です。一般企業の中で働いている自分を想像しても私には現在の姿が自分の性格に合っているように思えてなりません。

文明が急速に発達している現在、法律も多くの分野にわたり制定され、警察においても広い分野において対処していかなければならないようになっております。そのためには多くの専門的知識、技能に基づいた科学的捜査が必要とされています。

現在は、高専時代に教育された知識、技術とは関係ない職場にありますが、将来は鑑識課、科学捜査研究所、公害、特殊犯等、知識、技術を生かせる方面において、

仕事をしたいと考えております。

〒 420 静岡市瀬名830 県営東部団地N棟-379

最近にして思うこと

C1 関清司

卒業して、早いもので、4年の歳月が過ぎ去ってしまった。学生時代の4年といえば長いようだが、社会人になると、もう4年というような感じを受ける。学生時代は、今から思えば、自分自身の使える時間が多いので、日曜日などはよく昼頃起きたりしたものだが、今は何か時間が、もったいないようで、とてもそんなことはできない。1日は、長いようで短いものだというのを、つくづく感じる。あれこれと時間に追い回され気が付いたら人生の大半を過ぎていたというような話をよく聞かすが、最近では、実感として感じる。それだけに時間を大切にしたいものだと思う。

しかし、逆の言い方をすれば、過ぎ去った時点で、昔を振り返れば短いかもしれないが1つのものをなし遂げようとする、その過程においては、苦しければ苦しいほど長い。そんな時は、あせらず、落ち着くことが、必要なのではないか。この点については、社会人となり、多くの人が感じたことだと思う。着実に、1歩1歩進むことが必要であり、また最善の方法であろう。

人生においては、確かに、そうした努力は必要であるが、それで必ず報われるものとは限らない。しかし、それはそれでよいことであり、真の価値はその過程にある。そして、それ以前に、もっと大切なものがあるのではないか。

私達は、両親、多くの先輩の歩いた道を、今歩いている。この世に生をうけ、親の庇護のもとに成長し、やがて1人前となり、そして子を育み、年老いてこの世を去っていく。そして、また、子、後輩たちも、私達の歩いた道を、同じように、あえぎながらも進んでいくことだろう。そうした、くり返しの中に、人生の基本があるのではないか。平平凡々とした、生き方の中にこそ、最も大切な何かがあるような気がしてならない。

〒 420 静岡市瀬名630



近況

C3 鎌田俊巳

僕は現在、浜松市役所公害課に勤務しています。馬の^エサかと間違えるほど大きな弁当を手に郊外豊田町から25分あまり。8時30分始業というのに、駐車場難のため7時45分に到着。3年前をふり返えれば、この時刻は、まだまだ睡眠中。御殿場線電車の通過音で目がさめるようなものなら“もうひとねむりするか”といった具合だったのを思い出します。

公害課は職員27名。大気、騒音、水質、対策の4係で構成されています。若い職員が多く、対話も活発で、皆ファイト満々といったところ。ちなみに、課の平均年齢は29歳とちょっとだったように記憶しています。公害という言葉が流行語化している現在、行政サイドに立って考えると、たいへんに難しい仕事です。それだけに、やりがいがあると云えますが。僕は大気係に属し、主にオキシダント濃度の調査と、発生源対策を担当しています。ひとくちに光化学スモッグ(オキシダント)と言っても、その発生機構などについては、究明されていないわけで、他の要因と絡めてのデータ整理には、かなりの時間を費します。去年は光化学スモッグ注意報発令基準までは一度も達しなかったオキシダント濃度ですが、今年はどうなることやら。これからの梅雨あけが山です。

公害行政は難しい仕事だと言いましたが、公害苦情の調査に行くとそれを痛感します。工場と住民の間に意志の疎通がなかったために、感情問題にまで発展し、収拾に苦勞したこと。また、土地境界線の話し合いがこじれ、それとは別の件で、たいした迷惑を被っているとは思えないのに、公害だとして申し立てのあった事もありました。しかし、大半の苦情は、工場側の努力によって解決され“おかげで良くなりました。”という住民の話を聞くたびにほっとするものです。

学生時代は、気遣いのごとく野球をやっていましたが、現在はサッカー部に籍を置いています。気のむくままに、練習する程度ですから、強さはご想像していただくとおもいます。要するに、勝つこと第一主義でなく、皆でサッカーを楽しむといったところ。それでも、好きな野球は忘れられず、母校に行くと後輩と共に汗を流し、ノックバットを振るのを楽しみにしています。

〒 665 兵庫県宝塚市売布2-14-7 売布寮

死亡報告

荻野の死

C3 納谷修

S50.2/25 荻野雪枝氏より一通の手紙を受取りました。
「——荻野禎浩昨年9月病死致しました——」。

私の精神構造の中で生きることは疑う余地のない大前提であるため、若干の生への倦怠を覚えつつも自分の生きざまを思うことはあっても死にざまを思うことは、私流の合理主義によって渾沌とした無採色の世界へ追い落とされてしまっていたのですが、彼の死によってもたらされたものは、この無採色の世界の大きな質量を感じざるを得ないということでした。

彼は学生時代、映画通としての名をほしいままにしていました。週10本は下らないであろうほど消化し、特に土曜日曜は映画のはしごをするという豪の者で学校の図書室でもキネマ旬報か横溝正史の作品の他読んでいるのを見たことがありませんでした。

それが高じてか寅さんシリーズの沼津ロケには級友数人を引きつれて通りすがりの人ABC…に堂々出演、高専生多しといえど銀幕に登場したのは彼らぐらいのものでしょう。又、シネマメイトなる会に我々を勧誘し、少なくとも年2回は映画を観賞するファンにしてみました。映画に対する彼の打込みようがわかるようです。

彼を語る時のもう一つの大きなファクターは彼が常にユーモアの人であったことです。時にふれて機関銃のごとく飛び出し我々を飽きさせずそして変にしらけさせるのでした。あのとぼけたような、メガネの奥の少々蔭りのある能面のような表情とあわせて特異な個性を形成し、体育祭の時彼が演じたピエロはその意味で圧巻でありました。

〒 417 富士市伝法2-2507-2

故真野峰夫君を思う

C1 田中 一 博

高専時代、真野峰夫君（C1）はサッカー部にはいなかった。小さい体を力一杯動かしながらサッカーボールを追っていた姿が妙になつかしく思い出される。

高専卒業後、真野君は松下電器産業㈱の大阪府枚方市にある電動機研究所に勤務になった。そこで電動機の絶縁物の材質などをテストしたり研究していたようである。

今年1月に開かれた工業化学一期生の同級会に出席し元気な姿を見せていた。雑談の中で好きな人がいるが片想いであると語ってみんなを笑わしていた。その真野君

は、今はもういない。

8月2日土曜日に神戸市の須磨海岸にひとりで泳ぎにいき帰らぬ人となってしまった。今考えると何故ひとりで行ったんだ、どうして無理をしたんだと悔まれてならない。やるせなさがこみあげてくる。弱冠25歳の若さが、このように簡単にくずれさってしまうものだろうか。

我々高専卒業生は、彼に分まで力強く生き抜き、使命を達成せねばならないと思う。

以上

〒411 静岡県駿東郡長泉町中土狩817

死亡のお知らせ

M6 松岡 孝彦

昭和49年11月3日、松岡君が、交通事故により亡くなりました。ここに同君の冥福を祈ります。彼は、本校卒業後静大工学部に編入、同校卒業後、名古屋の新東工業に入社しました。

誠実な人間で、静大編入のため勉強に励んでいた彼の姿が思い出されます。合掌。



告知板

名簿担当理事

今年度の名簿担当理事は下記の通り決定しました。勤務先・現住所に変更のあった時には必ず連絡下さることをお願い致します。

| | | | |
|-----------|--|------------------------------------|---------|
| M1 跡部 恵一朗 | 〒410 沼津市大岡南小林3319-1 電業社機械製作所第2設計課 | 自宅 0559-21-1081 勤務 0559-75-8221 | 内線254 |
| M1 島村 俊 | 〒410 沼津市足高294-74 沼津鉄工団地内 明電舎沼津事業所機器事業部生技課 | 自宅 0559-22-7791 勤務 0559-21-5111 | 内線562~4 |
| M2 武田 裕久 | 〒412 御殿場市二枚橋100-10 電業社機械製作所第1設計課 | 自宅 0550-3-6312 勤務 0559-75-8221 | |
| M3 大地 喜久 | 〒410 沼津市大岡一色780 特殊製紙工務課 | 自宅 0559-21-7546 勤務 0559-86-1131 | 内線384 |
| M4 風間 隆太郎 | 〒410 沼津市東沢田861-2 三菱アルミニウム | 自宅 0559-21-8261 勤務 05599-2-1211 | |
| M5 鞠子 誠 | 〒412 御殿場市中山544 東芝機械化工機生産技術課 | 自宅 0550-7-1046 勤務 0559-21-5240 | 内線301 |
| M5 堀井 常雄 | 〒410 沼津市今沢165 昌和製作所生産三課 | 寮 0559-66-4980 勤務 0559-66-6111 | |
| M6 坂井 徳尚 | 〒410 沼津市下香貫島郷2865 富士アピタシオン | 自宅 0559-31-7346 勤務 0559-21-7809 | |
| M6 筒井 正文 | 〒419-01 田方郡函南町肥田 東洋金型 | 自宅 0559-78-2298 勤務 0559-22-1543 | |
| M7 杉山 高一 | 〒410-11 裾野市佐野931 国産電機原料課設計係 | 自宅 05599-2-3293 勤務 0559-21-5930 | 内線293 |
| M7 間野 賢司 | 〒410-24 田方郡修善寺町修善寺627-1 電業社第2設計課 | 自宅 0558-72-3786 勤務 0559-75-8221 | 内線253 |
| M8 石橋 正文 | 〒410-21 田方郡韭山町四日町854 電業社第1設計課 | 自宅 05594-8-3486 勤務 0559-75-8221 | 内線251 |
| M8 近藤 博明 | 〒410-2 沼津市千本港町14 東洋電産 | 自宅 0559-63-7134 勤務 0559-86-5360 | |
| M9 小林 勝 | 〒410 沼津市岡一色519-2 不二精機製造所 | 自宅 0559-21-3556 勤務 0559-86-2480 | |
| M9 芹沢 芳正 | 〒410-11 裾野市茶畑322 国産電機 | 自宅 05599-2-0884 勤務 0559-21-5930 | |
| E1 鈴木 恒男 | 〒410 沼津市香貫島郷2667-1 コータキ制御機器部 | 自宅 0559-31-0282 勤務 0559-86-5360 | |
| E2 神山 始佳 | 〒410 沼津市大岡1005-11 藤倉電線施設課 | 自宅 0559-51-5473 勤務 0559-21-3111 | 内線423 |
| E3 小池 洋三 | 〒410 沼津市八幡町13 明電舎複合装置設計課 | 自宅 0559-62-3496 勤務 0559-21-5111 | 内線605 |

| | | | | |
|-----|--------|-------------------------------------|------------------------------------|-------|
| E 4 | 加藤 昌裕 | 〒411 駿東郡長泉町下土狩1116-85 東芝機械 | 自宅 0559-86-2430 勤務 0559-21-5240 | 内線358 |
| E 5 | 小川 吉晴 | 〒410 沼津市大岡上石田2646-1 明電舎変圧器工場技術一課 | 自宅 0559-21-5887 勤務 0559-21-5111 | 内線312 |
| E 5 | 水上 重徳 | 〒421-33 庵原郡富士川町岩淵207 東芝機械 | 自宅 0545-86-0162 勤務 0559-21-5240 | 内線358 |
| E 6 | 大城 清 | 〒410-22 田方郡伊豆長岡町小坂918-2 大東製機 | 自宅 05594-8-2885 勤務 0559-21-2520 | |
| E 7 | 島本 豊 | 〒424-02 清水市興津本町234 藤沢薬品 | 自宅 0543-69-1762 勤務 0545-52-3680 | |
| E 8 | 長谷川 親正 | 〒411 駿東郡清水町新宿269 明電舎 | 自宅 0559-75-2072 勤務 0559-21-5111 | |
| E 9 | 大沼 義和 | 〒411 駿東郡長泉町竹原167-1 明電舎 | 自宅 0559-71-9330 勤務 0559-21-5111 | |
| E 9 | 諏訪部 豊 | 〒410 沼津市井出1177-8 沖海洋エレクトロニクス | 自宅 0559-66-3041 勤務 0559-23-2381 | |
| C 1 | 田中 一博 | 〒411 駿東郡長泉町中土狩817 東レ三島事業場製造部合成課 | 自宅 0559-86-1475 勤務 0559-86-2400 | 内線323 |
| C 2 | 中村 誠一 | 〒410 沼津市大岡3873 特殊製紙総合技術研究所 | 自宅 0559-21-6988 勤務 0559-86-1131 | 内線286 |
| C 3 | 納谷 修 | 〒417 富士市伝法2-2507-2 三島製紙 | 自宅 0545-51-0308 勤務 0545-52-4060 | |
| C 4 | 山田 久義 | 〒410-21 田方郡韭山町内中154 東洋醸造 | 自宅 05594-8-3809 勤務 0558-76-2111 | 内線364 |
| C 5 | 塩川 広 | 〒411 沼津市下香貫柿原2842 東洋醸造 | 自宅 0559-31-9223 勤務 0558-76-2111 | |
| C 5 | 望月 民男 | 〒410 沼津市東椎路1541-7 東和化成 | 自宅 0559-21-9301 寮 0545-52-6301 | 435号室 |

現住所不明者

同窓会はすべての沼津高専卒業生に総会の案内、会誌の発送その他の連絡をとりたいたと思っておりますが、残念ながら下記の方々は今住所不明につきそれらの連絡がとれておりません。

もし、これらの方々の現住所をご存知の人は同窓会までお知らせ下さい。

- M 1 小木
- M 2 青木, 浅井, 上野, 岡田, 加藤(昌一), 加藤(昌弘), 久野, 斉藤, 辰野, 中島, 中山, 村上, 横尾
- M 3 日向野
- M 4 青木, 岩崎, 渡辺
- M 5 飯高, 伊沢, 大森, 小笠原, 小野, 小林, 富井, 藤田, 水野, 森崎, 山内, 山口, 吉田
- M 6 岩堀, 加藤(光), 北川, 田中, 山口, 長田
- M 7 秋田, 岡田, 落合, 島田, 早瀬, 茂出木, 八木, 山田, 山本(優), 大長

- M 8 なし
- M 9 なし
- E 1 なし
- E 2 帯金, 川村, 近藤, 鈴木(春), 田代, 中野, 長谷川(正), 望月
- E 3 植松, 桑原, 鈴木(優), 三室, 吉野
- E 4 大畑, 小林, 田代
- E 5 杉崎, 山川
- E 6 荒木, 大内, 佐野, 塩川, 風間, 杉本, 日吉, 望月, 山田
- E 7 長谷川(為), 松野
- E 8 なし
- E 9 なし
- C 1 なし
- C 2 古性
- C 3 内田
- C 4 なし
- C 5 なし

9期生及び変更者名簿

1～6期生の勤務先及び現住所は創立十周年記念同窓生名簿を、7、8期生は前号同窓会誌を参照し、さらに変更者については前号同窓会誌を参照して下さい。なお9期生で名簿カードを返信していない人は同窓会までお送り下さい。また、勤務先又は現住所を変更した人も同様に同窓会又は名簿担当理事まで連絡して下さい。

9期生名簿

機械工学科

M 9 (昭和50年3月卒業) 71名

| 氏名 | 勤務先 | 現住所 |
|-------|---|--|
| 青野 勝利 | 静岡大学工学部 | 〒421-02 志太郡大井川町高新田1482 ☎ <05462> 2-2774 |
| 秋山 正弘 | 東芝機械(株) | 〒410-01 沼津市馬込187-17 ☎ <0559> 31-3965 |
| 有泉 政彦 | | 〒176 東京都練馬区石神井台2-8-3 若尾荘 |
| 有賀 信義 | 静岡瓦斯(株) | 〒420 静岡市丸子132-27 ☎ <0542> 59-1424 |
| 五十嵐 昇 | 三菱重工業横浜造船所本牧工場鉄構部工作課 ☎ <045> 621-1234 〒232 | 〒231 横浜市中区綿町12番地 |
| 井沢 庄次 | 東北大学工学部 | 〒982 仙台市八木山本町2丁目8-15 八木山荘 |
| 石井 厚 | 矢崎電線(株) | 〒410-34 田方郡戸田村戸田2621 ☎ <055894> 3451 |
| 伊藤 健二 | | 〒115 東京都北区西ヶ丘2-8-6 小根山方 ☎ <03> 900-0245 |
| 伊藤 進 | 住金発条(株) | 〒253-01 神奈川県高座郡寒川町岡田2-861 ☎ <0467> 75-0694 |
| 伊藤 友一 | トミー工業(株) 〒321-02 栃木県下都賀郡壬生町大字安塚3421 | 〒321-02 栃木県下都賀郡壬生町大字安塚3421 トミー工業(株)社宅16号 |
| 今福 仙一 | 日産車体(株) | 〒400 甲府市城東3丁目16-20 ☎ <0552> 35-1615 |
| 入山 俊之 | 本州製紙(株) | 〒417 富士市末広町2500 遠藤方 ☎ <0545> 35-0676 |
| 植田 修 | バイオニヤ所沢工場プレーヤー生産部生産技術課 ☎ <0429> 42-1151 〒359 埼玉県所沢市花園4の2610 | 〒359 埼玉県所沢市緑町4-39-4 バイオニヤ所沢寮 ☎ <0429> 22-4824 |
| 内山 孝 | ヤマハ発動機(株)生産技術部第一課 ☎ <05358> 7-1111 〒434 静岡県浜北市中条1280 | 〒434 浜北市新原3500 ヤマハ新原寮 ☎ <05358> 6-2016 |
| 大川 信尚 | トヨタ自動車工業(株) | 〒410-02 沼津市西浦江梨124 ☎ <055901> 297 |
| 大村 一好 | 日本オイルシール工業(株) | 〒420 静岡市下島476-2 ☎ <0542> 37-0660 |
| 小沢 仁 | | 〒410 沼津市小諏訪58 ☎ <0559> 63-2876 |

- 小野 惣一 (株)昌和製作所企画室第2グループ ☎ <0559> 66-5111 〒410-03 沼津市柳沢760
〒410 沼津市長松178 ☎ <0559> 66-2105
- 小原 好雄 安川電機製作所省力機械部設計課 ☎ <093> 641-3111 〒806 北九州市八幡西区小鷺田町11-1
〒806 北九州市八幡西区藤田2346番地 ☎ <093> 631-0614
- 笠井 一 日立プラント建設(株) 〒409-33 山梨県南巨摩郡中富町西島
1212 ☎ <055644> 11
- 加藤 千稔 本田技研工業(株) 〒430 浜松市上島町2325-2
☎ <0534> 72-5643
- 加藤 賢二 日産ディーゼル工業(株) 〒499-05 磐田郡佐久間町浦川2896-8
☎ <05396> 7-2548
- 加茂 安好 富士通(株) 〒430 浜松市下池川町29-4
☎ <0534> 71-3116
- 河合 司郎 オーエスジー(株) 〒410 沼津市本郷町6-29
☎ <0559> 31-1430
- 川崎 美佐雄 日本鋼管(株) 〒424 清水市下野511-2
☎ <0543> 65-0678
- 樽松 久夫 東京瓦斯(株) 〒211 川崎市中原区小杉町2-220
東京瓦斯川崎独身寮 ☎ <044> 722-8843
- 楢竹 貞利 (株)日本製鋼所 〒435 浜松市原島町504-1
☎ <0534> 61-6665
- 小林 勝 (株)不二精機製造所技術部設計課 ☎ <0559> 86-2480 〒410 沼津市岡一色519-2
〒411 駿東郡長泉町下土狩840 ☎ <0559> 21-3556
- 小松 繁樹 吉田工業(株) 〒431-12 浜松市村楠町2964
☎ <0534> 9-2178
- 斉藤 誠悦 (株)日立製作所 〒410-03 沼津市根古屋487-4
☎ <0559> 66-5976
- 斉藤 隆一 理研ビニール工業(株) 〒400-03 山梨県巨摩郡檜形町沢登1044
-1 ☎ <05528> 2-3643
- 榊原 伸 日本電信電話公社 〒420 静岡市安東2丁目26-18
☎ <0542> 45-6595
- 篠ヶ瀬 茂 (株)小糸製作所 ☎ <0543> 45-2251 〒420 静岡市千代田180-2-7
〒424 清水市北脇500番地 ☎ <0542> 86-8135
- 佐藤 芳邦 〒177 東京都練馬区石神井台2-8-3
若尾荘
- 杉田 博昭 日本オイルシール工業(株)生産技術部 〒251 神奈川県藤沢市善行2-18-3
第3善行寮 ☎ <0466> 81-9712
- 杉山 茂 トヨタ自動車工業(株) 〒412 御殿場市古沢97-1
☎ <0550> 3-0239
- 杉山 竹利 日本光学工業(株)大井製作所工作部工具課 ☎ <03> 773-1111 〒213 川崎市高津区新作1-7 新光寮
〒140 東京都品川区西大井1丁目6番3号 ☎ <044> 877-2938
- 鈴木 薫 住友化学工業(株) 〒299-01 千葉県一原市不入斗135
上稲田寮 ☎ <0436> 61-0617
- 鈴木 隆 キーパー(株)技術部技術課 ☎ <0466> 33-2111 〒251 藤枝市城南2-3-8 キーパー男子
〒251 藤枝市市立堂神台2丁目4番36号 ☎ <0466> 34-7944
- 鈴木 鉄男 静岡大学工学部 〒437 袋井市高尾930
☎ <05384> 2-3636
- 鈴木 利之 静岡大学工学部機械工学科3年在学中 〒432 浜松市文丘町29番7号 成瀬荘
☎ <0534> 71-1171 〒430 浜松市城北3-5-1 ☎ <0534> 72-2577
- 芹沢 芳正 国産電機(株) 〒410-11 裾野市茶畑322
☎ <05599> 2-0884

- 高橋 敬治 沼津工業高専専門学校機械工学科 〒410 沼津市大岡3871 宮本譲方
☎ <0559> 21-2700 内線355 ☎ <0559> 21-5378
- 滝川 修巳 (株)小糸製作所 〒420 静岡市伝馬町新田384番地の3
☎ <0542> 71-6839
- 滝本 英哉 島田理化学工業(株)生産技術部 ☎ <0424> 83-2111 〒182 東京都調布市柴崎2-1-3
〒182 東京都調布市柴崎2-1-3
- 田口 俊雄 藤沢薬品工業(株) 〒419-01 田方郡函南町仁田550
☎ <05597> 3122
- 竹内 周 静岡日本電気(株) 〒437-02 周智郡森町城下243
☎ <05388> 5-4476
- 都築 清志 O S G第一製造部2課B11班 ☎ <053393> 2181 〒441-12 愛知県宝飯郡一宮町字上新切450
〒441-12 愛知県宝飯郡一宮町字上新切450
- 中込 康人 日本電信電話公社 〒400-03 山梨県中巨摩郡檜形町小笠原
482-5 ☎ <05528> 2-1590
- 中村 真 (株)東洋現像所 〒435 浜松市宮竹町713-1
☎ <0534> 63-1755
- 長倉 哲雄 (株)明電舎 〒410 沼津市西間門385
☎ <0559> 63-0982
- 永田 信博 東洋製罐(株)横浜工場製造第1課製蓋第3係 〒213 川崎市高津区溝の口95 東洋製罐高
☎ <045> 571-2411 津寮 ☎ <044> 833-1918
〒230 横浜市鶴見区失向町1丁目1番70号
- 永田 豊 オリエン特時計(株) ☎ <0425> 81-1511 〒191 東京都日野市日野347
〒191 東京都日野市日野347
- 橋本 守司 豊和産業(株) 〒431-34 天竜市渡ヶ島733
☎ <05392> 5-2594
- 原 康三 東京電気(株) 〒410-25 田方郡中伊豆町城433-2
☎ <05588> 3-1526
- 深沢 三司 富士通(株) 〒424-03 清水市小島町789-1
☎ <054393> 2322
- 福田 寿夫 〒421-03 榛原郡吉田町川尻3044
☎ <05483> 2-1019
- 星崎 仁 凸版印刷(株) 〒420 静岡市小島2丁目8番2号
☎ <0542> 81-2055
- 前田 敏男 東洋ペーリング(株) 〒441-31 豊橋市中原町東山68-117
☎ <0532> 41-3283
- 増田 敏彦 吉田工業(株) 〒426 藤枝市青葉町3丁目13-27
☎ <05463> 5-1172
- 望月 英二 静岡大学工学部機械工学科 〒430 浜松市城北2丁目31-7 間瀬兼吉
方 ☎ <0534> 72-4824
- 望月 清平 グンゼ(株) 〒329-05 栃木県下都賀郡石橋町大字下
石橋字花林521
- 望月 重孝 三菱瓦斯化学(株) 〒409-34 山梨県南巨摩郡中富町失細工
955 ☎ <055643> 8372
- 守屋 好文 静岡大学工学部 〒410 沼津市大岡3559-54
☎ <0599> 22-9572
- 山内 栄 住友ペークライト(株) 〒421-11 志太郡岡部町岡部1146
☎ <05466> 7-1636
- 山崎 敏治 浜松市役所生活環境部公害課 〒431-12 浜松市館山寺町2502
〒430 浜松市元城町38-2 ☎ <0534> 52-2235 ☎ <05352> 7-1053
- 山本 馨 三菱電機(株) 〒431-04 湖西市白須賀582-3
☎ <05359> 9-0911

山本 健太郎
 山本 裕次 日本電装(株)
 渡辺 哲 日本電気(株)情報処理産業システム営業本部流通・サービス営業部
 渡辺 隆重 旭化成工業(株)

〒410 沼津市下香貫馬場505
 ☎ <0559> 31-7614
 〒410-35 賀茂郡西伊豆町仁科1796-2
 ☎ <05585> 2-0606
 〒211 神奈川県川崎市高津区野川3139
 日電野川寮 ☎ <044> 766-1842
 〒417 富士市中野239
 ☎ <0545> 35-0537

電気工学科

E9 (昭和50年3月卒業) 37名

| 氏名 | 勤務先 | 現住所 |
|--------|---|--|
| 朝香 知起 | 山武ハネウエル(株) | 〒410-33 田方郡土肥町土肥855-3 ☎ <05589> 8-0938 |
| 浅倉 隆 | 矢崎部品浜名製作所 ☎ <05357> 7-0131 〒431-04 湖西市梅田390 | 〒438 磐田市石原町1628-5 ☎ <05383> 2-2769 |
| 浅羽 章二 | 松下電送機器(株)システム開発センター画像システム部 第1設計課 ☎ <03> 491-9191 〒153 東京都目黒区下目黒2丁目3番8号 | 〒227 横浜市緑区美しが丘4-22-2 黎明寮 ☎ <045> 901-6503 |
| 石井 伸育 | (株)日本ユニバック (実習中) | 〒205 横浜市緑区市ヶ尾1063 NUK市ヶ尾寮 ☎ <045> 971-8700 |
| 大沼 義和 | (株)明電舎 (実習中) | 〒411 駿東郡長泉町竹原167-1 ☎ <0559> 71-9330 |
| 勝呂 元美 | 日本電気(株)集積回路事業部マイクロコンピュータ部 システム課 ☎ <044> 411-1111 〒211 川崎市中原区下沼部1753 (玉川事業所) | 〒211 川崎市高津区野川3139 NEC野川寮 ☎ <044> 766-1842 |
| 鎌田 正夫 | 松下電工(株) | 〒438 磐田市二ノ宮1814-3 ☎ <05383> 4-6471 |
| 久保田 勝彦 | 静大工学部 | 〒254 平塚市田村3 ☎ <0463> 55-6081 |
| 小林 勇 | 日本電装(株) | 〒425 焼津市大村新田2-1 ☎ <05462> 8-2888 |
| 小林 太吉 | (株)タケダ理研 | 〒401-03 山梨県南都留郡河口湖町小立67 ☎ <05557> 2-1201 |
| 小林 正人 | 旭化成工業(株) | 〒437-02 周知郡森町森182-7 ☎ <05388> 5-4581 |
| 佐野 善和 | 富士通(株) | 〒418 富士宮市小泉243-13 ☎ <05442> 6-5219 |
| 芝谷 和雄 | 東京芝浦電気(株) | 〒430 浜松市上石田町2524 ☎ <0534> 33-5758 |
| 清水 啓治 | 中央コンピューター(株) | 〒400 甲府市宝1丁目33番7号 ☎ <0552> 26-4509 |
| 杉田 正夫 | 日本アビオトロニクス(株) | 〒438 磐田市富士見町1031-15 ☎ <05383> 2-0406 |
| 鈴木 明広 | 日本電気(株) | 〒411 三島市1丁目5-1 ☎ <0559> 86-5737 |
| 鈴木 泰隆 | 東京電力多摩支店八王子公務所送電課 ☎ <0426> 42-5201 | 〒193 八王子市初沢町1271 東電高尾寮13号室 ☎ <0426> 61-0322 |
| 諏訪部 豊 | (株)沖海洋エレクトロニクス製造部組立第1G ☎ <0559> 23-2381 〒410 沼津市大諏訪字蘇原681-1 | 〒410-03 沼津市井出1177-8 ☎ <0559> 66-3041 |

田力 盛治 (株)小野測器製作所 (実習中)
 竜口 清 (株)中部電力
 玉越 賢一 (株)本田技研工業
 寺尾 仁 日立プラント(株)
 中田 晶治 (株)ミタチ音響製作所 ☎ <0559> 63-1201
 〒410 沼津市黄瀬川
 長沢 正氏 静岡大学工学部電気工学科
 福山 一成 (株)日立製作所(神奈川工場) ☎ <0463> 88-1311
 〒259-13 神奈川県秦野市堀山下1番地
 藤田 稔 三信工業(株) ☎ <0534> 41-3111
 〒432 浜松市新橋町1400
 保科 正之 (株)横河電機製作所
 蒔田 英敏 矢崎電線(株) ☎ <0559> 21-2111
 〒410 沼津市大岡2771
 牧野 安之 (株)興銀情報開発センター ☎ <03> 264-3111
 〒102 千代田区麴町2丁目4番地1
 日本興業銀行麴町別館内
 松原 秀樹
 松山 秀二 (株)住友化学工業
 丸尾 雅之 安藤電気(株)
 三島 正夫 電気通信大学三年 ☎ <0424> 83-2161
 〒182 東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番地1
 谷口 隆行 静岡日本電気(株) ☎ <05372> 3-2151
 〒436 掛川市下俣2番
 山崎 勝由 (株)日立製作所
 横山 弘 富士通ファコム(株)
 和光 靖夫 電気通信大学 ☎ <0424> 83-2161
 〒182 東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番地1

〒211 川崎市中原区小杉陣屋町1-769
 成瀬荘内
 〒570 三重県四日市市東ヶ谷-2407号
 中電東ヶ谷寮
 〒430 浜松市砂山町205
 ☎ <0534> 52-3605
 〒421-05 榛原郡相良町相良332
 ☎ <05485> 2-0409
 〒410 沼津市大岡白滝1180-1 白滝寮
 〒432 浜松市文丘町26-18 大淵方
 ☎ <0534> 72-9241
 〒259-13 秦野市戸川641 啓示寮
 ☎ <0463> 75-0924
 〒435 浜松市伊佐地町6918-33
 ☎ <0534> 85-1964
 〒184 小金井市前原町4-1-21
 横電小金井寮
 〒410 沼津市東熊堂705-3
 〒157 東京都世田ヶ谷区上祖師谷7丁目
 23-5 民豊荘B号館203号
 〒416 富士市松岡1806-173
 ☎ <0545> 61-2672
 〒299-01 千葉県市原市不入斗135
 住友化学上穂田寮
 〒439 小笠郡菊川町棚草2768
 ☎ <054827> 36
 〒182 東京都調布市布田5-12-5 角田方
 ☎ <0424> 83-2344
 〒439 小笠郡菊川町倉沢362-2
 ☎ <05373> 6-0656
 〒435 浜松市小池町1365
 ☎ <0534> 63-9074
 〒417 富士市一色176-1
 ☎ <0545> 51-8230
 〒182 調布市国領23番地 鈴木四郎方
 ☎ <0424> 83-5620

工業化学科

C5 (昭和50年3月卒業) 34名

| 氏名 | 勤務先 | 現住所 |
|--------|---------|--|
| 朝羽 孝司 | 大和製罐(株) | 〒426 藤枝市上当間286-3 ☎ <05463> 3-1643 |
| 岩ヶ谷 昌敏 | 静岡瓦斯 | 〒420 静岡市川合1144-2 |
| 遠藤 稔雄 | 諏訪精工(株) | 〒417 富士市広見町579-10(312号) ☎ <0545> 56-1974 朝須崎方 |

C5

- 大曾根 健二 住友化学工業(株) 〒256 神奈川県小田原市酒匂621 ☎ <0465> 47-4647
- 垣野 真一 日本錬水(株) 〒417 富士市吉原2丁目11-17 ☎ <0545> 52-1834
- 桐ヶ谷 聡 小松化成(株) 〒411 駿東郡長泉町下土狩932-1
- 佐藤 牧夫 東京電気化学工業(株) 〒253 神奈川県茅ヶ崎市東海岸南6丁目6-38 ☎ <0467> 85-7796
- 佐野 茂俊 静岡大学在学中 〒417 富士市中比奈2丁目1310-2 ☎ <0545> 34-3869
- 塩川 広 東洋醸造(株)薬品技術部製剤技術課 ☎ <0558> 76-2111 〒410-23 田方郡大仁町三福632-1
- 志村 光則 静岡大学在学中 〒416 富士市岩本湯沢平537-65 ☎ <0545> 61-9420
- 小豆川 良雄 〒417 富士市今泉3丁目14-2 ☎ <0545> 52-4813
- 杉山 一弥 静岡大学在学中 〒419-02 富士市厚原842 ☎ <0545> 71-2104
- 鈴木 一成 静岡大学在学中 〒430 浜松市浅田町29 ☎ <0534> 52-1290
- 鈴木 広行 鐘淵化学工業(株)高砂工業所合成樹脂製造部MBS課 ☎ <07944> 2-3181 〒676 兵庫県高砂市高砂町宮前町1番8号
- 鈴木 正育 中央興業合資(株) 〒420 静岡市大谷2684 ☎ <0542> 37-2286
- 清 勝彦 藤沢薬品工業(株) 〒418 富士宮市大宮2631-28 ☎ <05442> 7-0010
- 田代 孝行 三菱化成工業(株) 〒437-11 磐田郡浅羽町浅羽1594-1 ☎ <053823> 9491
- 露木 尚志 出光石油化学(株)千葉工場製造課 ☎ <0436> 62-3111 〒299-01 市原市姉崎海岸1-1
- 中西 久雄 日本楽器製造(株) 〒430 浜松市向宿町495 ☎ <0534> 61-7774
- 中西 正泰 日本光学工業(株)眼鏡技術部技術課 ☎ <03>773-0481 〒140 東京都品川区大井3丁目9番16号
- 永田 幸雄 旭化成工業(株) 〒424 清水市柏尾399-44 ☎ <0543> 46-0645
- 新村 喜美雄 日本乳化剤(株) 〒411 駿東郡清水町上徳倉907-2 ☎ <0559> 32-0851
- 賛川 和彦 日本電子工学院在学中 〒411 駿東郡長泉町下土狩727-13 ☎ <0559>
- 野中 基司 共和レーザー(株) 〒430 浜松市鹿谷町34-5 ☎ <0534> 71-5926
- 袴田 至幸 日本ロッシュ(株) 〒438 磐田郡豊田村中野戸553 ☎ <05383> 4-1792
- 広田 孝雄 旭化成工業(株) 〒420 静岡市千代田438-17 ☎ <0542> 45-2826
- 松島 雄三 本田技研工業(株) 〒425 焼津市吉津134-1 ☎ <05462> 8-9911 有線3405
- 松本 一社 ポーラ化成工業(株) 〒428 榛原郡金谷町金谷5-4 ☎ <05474> 5-4429

C5・M1

- 丸山 章 三菱化成工業(株) 〒411 三島市大宮町3丁目9-37 ☎ <0559> 71-3736(朝近藤方)
- 三浦 康雄 岡山大学在学中 〒428-01 榛原郡川根町家山4152-14 ☎ <054753> 3085
- 望月 民男 東和化成工業(株) 〒410-03 沼津市東椎路1541-7 ☎ <0559> 21-9301
- 山下 智司 シンワ化学工業(株) 〒436 掛川市掛川1200 ☎ <05372> 3-1427
- 和久田 哲男 住友化学工業(株) 〒410-11 裾野市稲荷197-12 ☎ <05599> 2-2669
- 和田 光雄 静岡大学在学中 〒418 富士宮市朝日町6番27号 ☎ <05442> 7-9454

住所変更者

機械工学科

M1 (昭和42年3月卒業) 18名

| 氏名 | 勤務先 | 現住所 |
|--------|---|--|
| 青木 栄一 | 遠州クロス(株)設計課 ☎ <05358> 8-0211 〒434 静岡県浜北市根堅788 | 〒434 浜北市根堅1532-3遠州クロス社宅内 ☎ <05392> 6-1909 |
| 市川 光夫 | サンドウィック日本支社名古屋営業所営業課 ☎ <052> 781-5071 〒464 名古屋市千種区井上町113 星ヶ丘中央ビル | 〒430 浜松市砂山町103 ☎ <0534> 52-0669 |
| 伊藤 信義 | 田島応用化工(株)埼玉工場技術課 ☎ <0492> 85-2552 〒350-02 埼玉県入間郡鶴ヶ島町脚折1438 | 〒350 埼玉県川越市鯨井1969-3 田島応用社宅3-3 ☎ <0492> 32-3048 |
| 入沢 頼雄 | 石原機械工業(株) ☎ <0559> 22-8811 〒410 沼津市足高 沼津鉄工団地内 | 〒410 沼津市筒井町6-4 遠藤アパートA 203号 ☎ <0559> 22-4466 |
| 沖沢 哲夫 | 富士精工(株)技術部開発課 ☎ <0462> 61-2405 〒242 神奈川県大和市深見787 | 〒210 川崎市高津区宮崎5-4-8 第2入口荘3号 ☎ <044> 877-8784 |
| 木ノ内 倫弘 | 東芝機械(株)沼津営業所第1工作部生産技術課 ☎ <0559> 21-5240 〒410 沼津市大岡2068-3 | 〒410 沼津市山王台11-12 ☎ <0559> 63-8804 |
| 小林 正利 | 特許庁審査第三部一般機械課 ☎ <03> 501-1511 内4888 〒100東京都千代田区霞が関3-4-3 | 〒247 鎌倉市山ノ内1262 大久保方 ☎ <0467> 25-4803 |
| 佐々木 浩 | コーワカッター(株) | 〒410 沼津市市道町816-12 |
| 島村 俊 | (株)明電舎機器工場開発部生産技術課 ☎ <0559> 21-5111 内線563 〒410 沼津市東間門字上中溝515 | 〒410 沼津市足高294-74 沼津鉄工団地内 ☎ <0559> 22-7791 |
| 高橋 秀明 | 国鉄新幹線総局大阪運転所 ☎ <0726> 54-5405 〒567 大阪府摂津市鳥飼中469 | 〒564 大阪府吹田市千里丘上5 国鉄アパート8-504 ☎ <06> 877-2517 |
| 橘 孝次 | (株)奥村組名古屋支店 | 〒497 愛知県海部郡蟹江町本町字ソの割107 森荘2号室 ☎ <05679> 5-5196 |
| 中村 馨 | (株)リコー沼津工場工務部工務課 ☎ <0559> 21-2251 〒410 沼津市本田町16-1 | 〒416 富士市大野町79 ☎ <0545> 33-2797 |
| 鍋田 護 | 新津工業 | 〒430 浜松市湖東団地C-11-202 ☎ <0534> 86-1479 |
| 長谷川 晴男 | 日本システム(株) ☎ <03> 262- 〒107 東京都港区赤坂 | 〒141 東京都品川区戸越3-5-8 里美荘 ☎ <03> 783-4684 |

M1・2・3・4

早川 富博
 松本 裕 東邦産業(株)
 〒252 神奈川県高座郡綾瀬町小園1003
 柳下 福蔵 沼津工業高等専門学校機械工学科
 〒410 沼津市大岡36
 山本 貢 (株)NTN東洋ベアリング専用工作機研究所
 〒438 磐田市東貝塚1578

M 2 (昭和43年3月卒業) 6名

大橋 彰 油研工業(株)相模工場研究開発部開発三課
 ☎ <0467> 78-2211
 〒252 神奈川県高座郡綾瀬町上土町棚2424
 小出 和男
 小島 広志 富士電機製造(株)制御技術本部システム一部技術二課
 ☎ <044> 33-7111
 〒210 川崎市田辺新田一番一号
 土屋 巽 日本車輛製造(株)
 板倉 幸雄 日本電装(株)生技部生技研究1-6
 (旧姓中西) ☎ <0566> 22-3311 内線2337
 〒448 愛知県刈谷市昭和町1-1
 本間 秀明 東罐興業(株)

M 3 (昭和44年3月卒業) 2名

毛利 吉男
 山田 和博
 〒424 清水市草薙350-37
 ☎ <0543> 46-4672
 〒424 清水市草薙59-5
 ☎ <0543> 45-7502

M 4 (昭和45年3月卒業) 17名

市川 章 アルプス電気(株)
 岩永 一夫 カント(株)
 〒412 御殿場市永塚268
 小沢 広志 神戸製鋼所 第1製造部
 笠井 司朗 東岳興業(株) ☎ <03> 371-1451
 〒154 東京都世田谷区池尻3丁目11番32号
 金子 豊 リコー本社 工産技術センター
 北川 久三男 古川電気工業(株) 特品課
 木村 均 千代田化工建設(株)
 小池 興次 岡崎工業
 〒363 埼玉県桶川市泉町1-1-3 吉沢方
 〒228 相模原市松ヶ枝1-5 山下荘3号
 ☎ <0427> 46-3640
 〒411 駿東郡清水町外原2158 公務員香貫
 住宅2-21 ☎ <0559> 32-8833
 〒438 磐田郡豊田町加茂941(米国出張中)
 ☎ <05383> 5-0337
 〒417 富士市伝法5-50 桜ヶ丘団地
 〒433 浜松市三方原町92-7
 〒242 神奈川県大和市下草柳1448-5
 〒458 名古屋市緑区鳴海町有松裏112
 日本車輛 有松寮
 〒447 愛知県碧南市字山神83-2
 ☎ <0566> 41-7290
 〒228 神奈川県相模原市東林間3-18-15
 日高荘 7号室
 〒424 清水市草薙350-37
 ☎ <0543> 46-4672
 〒424 清水市草薙59-5
 ☎ <0543> 45-7502
 〒989-61 宮城県古川市3日町2-2-6
 アルプス寮 ☎ <02292> 3-5449
 〒412 御殿場市滝ヶ原2093
 〒657 神戸市難区大内通5丁目1-3
 稗田神鋼寮
 〒230 横浜市鶴見区下末吉6-17-15
 井橋方 ☎ <045> 581-7949
 〒143 東京都大田区中馬込1丁目3番6
 号 ☎ <03> 772-2811
 〒530 大阪市北区どう島浜通り274
 ☎ <0797> 31-9732
 〒233 横浜市港南区下永谷町1024
 千代田アパート148号
 ☎ <045> 823-9077
 〒314 茨城県鹿島郡鹿島町平井押合1128
 -47 鹿島青雲寮 ☎ <02998> 2-6302

M4・5

沢崎 春樹 三井造船労働組合 ☎ <03> 452-8588
 〒105 東京都港区芝二丁目20-12
 杉山 明敏 三菱重工(株)
 鈴木 克美 久保田鉄工(株)
 鈴木 兵治
 高橋 修 岩谷産業(株)
 藤波 祥司 佐藤工業(株)
 松永 繁 日立プラント建設(株)
 (旧姓掘池)
 水谷 義郎 竹中工務店 ☎ <0542> 55-5111
 望月 正美 ☎ <0542> 45-3496
 〒182 東京都調布市西つつじヶ丘1-17-1
 三井造船西つつじヶ丘荘
 ☎ <0424> 86-7609
 〒220 横浜市西区北軽井沢8-1 三菱重工
 横浜造船所軽井沢寮102号
 ☎ <045> 312-7531
 〒573 大阪府枚方市中宮2577 久保田鉄
 工第二寮
 〒415 下田市柿崎36-51
 ☎ <05582> 2-0465
 〒274 千葉県船橋市習志野台4-2-20
 岩谷産業寮 ☎ <0494> 65-9212
 〒343 埼玉県越谷市北越谷5丁目8番4
 号
 〒270-02 千葉県野田市尾崎857 日立プ
 ラント川間アパートA-14
 〒420 静岡市有明城1番5号
 〒421 静岡市大岩1-9-4
 ☎ <0542> 45-3496
 〒424 清水市下野547-5
 〒443-01 愛知県蒲郡市形原町上辻11-1
 〒486 愛知県春日井市小木田町6
 鈴与春日井寮
 〒590-05 大阪府泉南市岡田1843
 〒430 静岡県浜松市船越町20-7
 〒242 神奈川県大和市深見台1丁目11-9
 第三みどり荘
 〒192 東京都八王子市東浅川町318
 高尾寮
 〒463 名古屋市守山区小幡北山2761-609
 〒253 茅ヶ崎市矢畑金山42 三興製作所
 金山寮
 〒420 静岡市大岩1丁目8-25
 〒421-12 静岡市山崎2丁目1-20
 〒350-02 埼玉県入間郡坂戸町字東海村
 1500
 〒562 大阪府箕面市稲538 全日空稲寮
 〒442 愛知県豊川市諏訪3丁目123
 新東工業独身寮
 〒673 明石市西明石町1-3-5 西明石寮
 〒230 横浜市鶴見区岸谷1-3-25
 東京ガス(株)生麦寮
 〒411 駿東郡清水町徳倉岩下66
 〒233 横浜南区別所1丁目15番1号
 日揮南明寮

M 5 (昭和46年3月卒業) 25名

池田 晴光 (株)金指造船所設計部機装課 ☎ <0543> 34-5151
 〒424 清水市三保491-1
 稲吉 敏邦
 大石 功
 大塚 政司
 大野 順三
 岡田 清
 片岡 慎一
 勝又 徹
 木村 修
 沢原 富士雄
 杉山 裕司
 鈴木 克利
 鈴木 真琴
 田口 尊博
 田中 裕史
 柘植 宗紀
 富田 直治
 伊藤 哲哉

中戸川 武
堀井 常雄
平柳 正滋
松江 秀隆
山下 隆志
山村 一昭
米山 孝夫
渡辺 彰男 富士通川崎工場伝送機器部電源課
☎ <044> 777-1111
〒211 神奈川県川崎市中原区上小田中1015

M6 (昭和47年3月卒業) 9名

川口 善道 日立製作所清水工場生産技術課
〒424 清水市村松390
木戸 実 明電舎(株)コンピューターシステム部計算機制御第3グループ
☎ <03> 365-0466
〒160 東京都新宿区北新宿1-5-2 佐藤ビル
坂井 徳尚 (有)富士一
〒410 沼津市双葉町6-24
佐野 研司 日新興業(株)工事課
沢田 立志 立石電機三島製作所
〒411 三島松本66
筒井 正文 三静工業 (東洋金型出向中)
手埴 素久 金指造船所機関計画課
〒424 清水市三保
中瀬 博路 仲瀬工業(株)技術開発部長
〒443-01 現住所に同じ
山本 和夫

M7 住所変更なし

M8 (昭和49年3月卒業) 6名

中村 雅之
中山 清夫
野島 徹男 鈴木自動車工業(株) ☎ <0534> 47-1111
〒432-91 静岡県浜名郡可美村高塚300
府川 和広 埼玉大学在学理工学部機械工学科
〒338 浦和市下大久保255
星野 克彦 日本楽器(株)製造生産管理部品質保証課
松井 美雄 日産車体(株)検査部部品検査課
〒254 平塚市天沼

〒412 御殿場市神山911-4
〒410 静岡県沼津市今沢165 今沢寮
〒451 名古屋市西区又穂町2丁目1番地
又穂団地2号棟835号
〒336 埼玉県浦和市文蔵3-237
栄寿荘内 ☎ <0488> 63-7739
〒673 神戸市垂水区玉津町吉田348-7
百幸荘202号
〒242 神奈川県大和市つきみ野3-1-5
〒412 御殿場市川島田508-1
〒227 横浜市緑区荏田町2646-5
富士通第7市ヶ尾寮
☎ <045> 973-4020

〒420 静岡県小鹿1-32-5
〒144 東京都大田区東嶺町32-9
第1久ヶ原寮
〒410 沼津市下香貫島郷2865
☎ <0559> 21-7809
〒420 静岡市水道町69
〒411 三島市大場241
〒419-01 静岡県田方郡函南町肥田
☎ <0559> 78-2298
〒424-02 清水市興津中町362
〒443-01 愛知県蒲郡市一色町福地9-3
☎ <0533> 57-5335
〒980 仙台市米ヶ袋1丁目4-21
佐藤みつ子方

〒173 東京都板橋区中板橋13-14
山口医院方
〒173 東京都板橋区中板橋13-14
山口医院方
〒432 静岡県浜松市舘塚2-7-4
☎ <0534> 53-2872
〒338 浦和市白幡191-3 柏原芳一方
☎ <0488> 61-2147
〒431-12 浜松市村柳町2935-5
☎ <05352> 9-2451
〒254 平塚市八幡507 八幡寮

電気工業科

E1 (昭和42年3月卒業) 16名

伊藤 豊 東京芝浦電気(株)深谷工場技術部回路課
☎ <0485> 72-2211
〒366 埼玉県深谷市幡羅町1-9-2
岩崎 芳明 新日本電気(株)
梅田 陸男
草分 孝太郎 海上自衛隊大湊造修所武器部
〒039-51 青森県むつ市大湊町
近藤 司 東海理化電機製作所技術部
☎ <0560> 49-1211 内350
近藤 勉 東京芝浦電気(株)府中工場高压シャ断機開発担当グループ
☎ <0423> 66-1111 内3211
〒183 東京都府中市東芝町1番地
佐藤 裕三 八木アンテナ(株)大宮工場電子機器部設計課
☎ <0486> 83-5011 〒330 大宮市蓮沼1406
鈴木 克巳 日本電気(株)電子交換事業部 ソフトウェア部
田口 稔男 東陽通商
田中 甲志雄 電々公社盛岡統制無線中継所 ☎ <0196> 23-0319
〒020 盛岡市中央通り1丁目2番2号
田中 晋士 東京電力(株)沼津支店
平岡 敏男 関東電気工事(株)関西支社 ☎ <06> 261-0291
〒541 大阪市東区南久宝寺町3-41
松岡 孝一 日本国有鉄道鉄道技術研究所信号研究室
☎ <0425> 72-2151 内235
〒185 東京都国分寺市光町2-8-38
宮地 卓男
村松 正敏 富士写真フィルム(株)東京本社マイクロシステム部
☎ <03> 406-2237
〒106 東京都港区西麻布2-26-30
山下 隆生

E2 (昭和43年3月卒業) 3名

小原 雅春 ブックローン(株)水戸営業所 ☎ <0292> 25-4499
〒310 茨城県水戸市泉町2丁目3番2号
杉村 恒男 (株)JNF本社 ☎ <0550> 9-1300
〒412 静岡県御殿場市川島田1365
鈴木 秀幸 超音波工業大阪支店 ☎ <06> 304-2031
〒532 大阪市淀川区西中島3-19-13
第2ユヤマビル内
内山 孝太郎 スタンレー電気(株)浜松工場 ☎ <0534> 36-6111
〒430 浜松市葵町101

〒366 埼玉県深谷市東大沼249-1
☎ <0485> 73-2390
〒215 神奈川県川崎市多摩区百合ヶ丘1-17
公団住宅第1号棟202号
☎ <044> 955-7149
〒183 東京都府中市四谷3-63 大村荘
103号 ☎ <0423> 66-7200
〒039-51 青森県むつ市川守町2-51
322号
〒452 愛知県西春日井郡西枇杷島町花咲町
84 公団住宅1226号
〒192-02 東京都多摩市永山4-4-2
302号室 ☎ <0423> 74-3834
〒335 埼玉県蕨市北町1-7-20
〒175 東京都板橋区高島平2丁目32-4-1016
☎ <03> 936-3601
〒253 神奈川県茅ヶ崎市中海岸4-2-63
湘南レジデンス401 ☎ <0467> 86-1219
〒020 盛岡市加賀野3丁目12-11
☎ <0196> 51-8463
〒416 富士市松岡603-6
☎ <0545> 61-2550
〒564 大阪府吹田市泉町1-22-12
☎ <06> 385-6490
〒160 東京都新宿区北新宿3-40-14
国鉄柏木寮112号室
☎ <03> 363-1006
〒239 神奈川県横須賀市久里浜6-4-1
久里浜寮
〒211 神奈川県川崎市高津区野川3140
富士フィルム社宅4-301
☎ <044> 788-6287
〒421-01 静岡市用宗巴町1-9

E 3 (昭和44年3月卒業) 13名

- 稲葉 務 〒191 日野市平山1606 東芝第二平山寮
- 井上 修 2411 ANGELA st
SIMI VALLEY CA 93065 U S A
- 大塩 忠 〒370-11 高崎市西横手町180-1
日立至誠寮
- 太田 猛 〒187 小平市回田町70-1 白強寮
- 大畑 高二 〒157 東京都世田谷区砧2-5-18
コーポいずみ302号
- 小沢 成彰 三菱電機 〒420 静岡市南町4-2
- 小杉 勇平 日本電気(株)マイクロ波衛星通信(株)開発部
〒226 横浜市緑区池辺町4035 〒221 横浜市神奈川区神大寺町610 神大
寺団地6-714(現住所不明に付自宅)
- 鈴木 悦郎 三菱電機 〒251 藤沢市藤沢3-6-13 三菱電機花
ノ木第1寮404号室
- 高田 正実 〒226 横浜市緑区東本郷町168 東本郷住
宅148
- 田中 克男 日新電機 〒371 前橋市幸塚町194-3
- 田村 正一 〒259-13 秦野市堀山下1日立願心寮
- 増田 研司 シャープ 〒639-11 奈良県大和郡山市美濃庄町
早川電気 若草寮
- 望月 照司 東京芝浦電気 〒416 富士市松岡1292-3

E 4 (昭和45年3月卒業) 2名

- 田代 六美 〒158 東京都世田谷区深沢1-12-10
- 美尾 恵巳 日立製作所神奈川工場開発 〒259-13 神奈川県秦野市戸川641
☎ <0463> 75-0924

E 5 (昭和46年3月卒業) 6名

- 加藤 善雅 日本ビクター 〒734 広島市旭町1650 日本ビクター清
和寮
- 佐藤 猛 北辰電機製作所 〒143 東京都大田区南馬込1-60-6
南馬込寮
- 遠藤 勉 〒417 富士市原田527
- 左部 俊治 日本IBM 〒520-23 滋賀県野洲郡野洲町南桜1460
-45
- 佐野 幸雄 〒417 富士市富士岡554-3
- 水越 登 ユキノ設備工業(株) 〒640 和歌山市玉藻町1丁目11 雪野実
生方 ☎ <0734> 22-0294

E 6 (昭和47年3月卒業) 2名

- 寺田 孝見 茨城通研 ☎ <02928> 7-7239
〒319-11 茨城県那珂郡東海村 〒311-41 茨城県水戸市東赤塚2090
電電赤塚独身寮

- 井出 和雄 ソード電算機システムソフトウェア部
☎ <03> 279-2008
〒103 東京都中央区日本町室町1-8 真光ビル

E 7 (昭和48年3月卒業) 2名

- 中村 孝文 静岡大学工学部大学院生(電気制御) 〒430 浜松市文丘町1-8 丸井久美方
- 鷹野 澄 東京大学生産技術研究所第3部渡辺研究室
☎ <03> 402-6231
〒106 東京都港区六本木7-22-1 〒401-05 山梨県南都留郡忍野村忍草38
☎ <055584> 2107

E 8 (昭和49年3月卒業) 8名

- 渥美 寿一郎 日立製作所 〒316 日立市諏訪町4-1-1
- 石田 康久 早稲田大学理工学部建築学科在学 〒413-02 静岡県伊東市赤沢10
- 大和田 裕 早稲田大学社会科学部在学 〒251 藤沢市藤沢545
- 金子 衛 松下電器産業(株)無線研究所機器第一開発室
〒571 大阪府門真市大字門真1006 〒571 大阪府門真市中町1-19 松下電器
松心寮 ☎ <06> 901-0139
- 津久井 修一 明治大学商学部(在学) 〒411 駿東郡清水町中徳倉7-6
- 田森 信行 静大工学部電気工学科(在学) 〒432 浜松市布橋2-9-27 水島方
〒430 浜松市城北3-5-1
- 藤中 涉 高千穂通信機器東京営業所 〒173 東京都板橋区稻荷台12-8 栄光荘
- 山田 収一 北辰電気デジタル技術 〒154 東京都世田谷区奥沢1-48-4
五十嵐方

工業化学科

C 1 (昭和47年3月卒業) 9名

- 市川 三郎 藤沢薬品(株)一部二課 ☎ <0545> 52-3680
〒417 富士市中河原88 〒410 沼津市大岡自由ヶ丘1972-33
☎ <0559> 23-1338
- 坂田 正男 味の素(株)中央研究所LG部S課 ☎ <044> 222-1111 〒210 川崎市川崎区観音2-20-8
〒210 川崎市川崎区鈴木町1-1 ☎ <044> 266-2859
- 杉本 隆一 三菱化成商品研究所イオンシステム班
☎ <045> 981-1211 〒194 東京都町田市南大谷1370-10
〒213 横浜市緑区鴨志田町1000 コーポ千代田
☎ <0427> 25-7202
- 杉本 敏博 静岡県警本部刑事部総務課 ☎ <0542> 54-4351
(旧姓杉山) 〒420 静岡市追手町9-6 〒420 静岡市瀬名830 県営東部団地N棟
-379
- 鈴木 博水 日産化学工業(株)袖ヶ浦工場環境保安室
☎ <04386> 2-1371 〒299-02 〒299-01 千葉県市原市有秋台東2-2
日産若樹寮
- 竹内 豊 住友化学工業 〒299-01 千葉県市原市不入斗字上穂田135
〒299-01 千葉県市原市不入斗字上穂田
135 住友化学寮
- 日向 清隆 本田技研工業(株)鈴鹿製作所四輪車品質開発G
☎ <0593> 78-1212 〒513 鈴鹿市平田町1907 〒513 鈴鹿市算所町1047-5
- 松浦 勇 旭タウ(株)千葉工場製造課製造係
☎ <04386> 2-6111 〒299-02 千葉県君津郡袖ヶ浦町神納
3431 旭タウ上総寮
☎ <04386> 2-5764
- 山口 直孝 富士フイルム(株) ☎ <03> 406-2210
〒106 港区西麻布2-26-30 〒158 東京都世田谷区深沢7-21-17
富士フイルム世田谷寮237号室
☎ <03> 701-4211
- 山田 豊 ヤマハ発動機(株)品質管理部品質保証2課
☎ <05383> 2-1111 〒437-12 磐田郡福田町福田4468-3
〒438 静岡県磐田市新貝2500 ☎ <05385> 5-2833

C 2 (昭和47年3月卒業) 4名

岩下 清

〒663 兵庫県西宮市小松南町3丁目3-25
鳴尾アパート ☎ <0798> 46-0849

大石 節子

〒332 埼玉県川口市本町1-16-6
小島方 ☎ <0482> 24-4315

佐野 秀明 東海ガス(株)富士宮支店 ☎ <05442> 7-2570
〒418 富士宮市万野原新田

〒418 富士宮市朝日町2-5
☎ <05442> 7-3408

佐野 宏子 主婦
(旧姓村上)

〒418 富士宮市朝日町2-5
☎ <05442> 7-3408

C 3 (昭和48年3月卒業) 1名

坂田 勘二 東京大学工学系研究科修士課程合成化学科米田研
☎ <03> 812-2111 〒113 東京都文京区本郷

〒113 東京都文京区本郷6-20-3
本郷館 ☎ <03> 811-4490

C 4 (昭和49年3月卒業) 1名

鈴木 邦明

〒153 東京都目黒区目黒3-10-16
目黒寮



来年(昭和51年)は同窓会設立10周年です!!

記念行事として、まだ決定ではありませんが
次の様な企画が考えられています。

1. 同窓生名簿の発行 (有料)
2. 特別会誌の発行 (有料)
3. 10周年記念総会

ようやく、整いはじめた同窓会の運営とその機能を今後さらに充実したものに育て上げるため、事務局では会員の皆様からの

新企画募集中

です。同窓会宛ていつでも、便りをお送り下さい。お待ちしております!!

編集後記

名前の決まらないまま、この点は少し残念なのですが、
ともかく、教職員ならびに同窓生の皆様方の御協力により、
同窓会誌第5号が発行されるに至りました。

この会誌が、皆様のお手元に届き、学生時代を懐かし
む材料に、また、同窓会や同窓生についての情報を得る
のに、少しでもお役に立てば幸いと思います。

内容的には、前号と大きく異なる点はありませんが、
今回、「変わった職業特集」として、皆様が、意外と思われ
る職業に付いておられる会員の方たちに原稿を依頼し、
それを載せました。

本誌の内容、あるいは、今後の会誌発行についての御
意見がございましたら、同窓会までお寄せください。

本誌の編集にあたりまして、会員の皆様の原稿が少
なかったのが残念です。次号からは、内容に富んだ、も
っと厚い会誌にしたいと思います。

皆様の御協力をお待ちしています。

| | | |
|---------|-----|---------|
| 編集委員長 | E 2 | 神 山 始 佳 |
| 編 集 委 員 | E 5 | 小 川 吉 晴 |
| | M 9 | 小 林 勝 |
| | E 9 | 諏訪部 豊 |
| | C 5 | 塩 川 広 |

おわび

前回発行しました「同窓会誌」第4号ですが
2号、3号が発行されてなく、2号3号を欠号
といたします。またその他の細かい誤りにつ
いてはお許しください。

同窓会誌 第5号

昭和50年9月15日 発行

発行責任者 沼津工業高等専門学校同窓会
伊 達 忠 昭
〒410 沼津市大岡3600
沼津工業高等専門学校内
TEL 0559-21-2700

印刷所 ジャパンコミュニケーション
〒410 沼津市平町20-12
TEL 0559-51-7555